

JSPS 科研費 JP21H00829(基盤研究(B))

「ジェンダー視点に基づく教員育成スタンダード化政策の再検討—全国調査をもとにして」

研究代表者 木村育恵(北海道教育大学)

教員のキャリア形成に関するアンケート調査
(オンラインによる全国教員調査)
第2次報告書

2024 年2月

木 村 育 恵(北海道教育大学)

河 野 銀 子(九州大学)

田 口 久美子(和洋女子大学)

池 上 徹(関西福祉科学大学)

跡 部 千 慧(立教大学)

高 野 良 子(植草学園大学名誉教授)

井 上 いずみ(公立学校教員)

目 次

はじめに	1
1. 研究の目的	1
2. 調査の概要	1
3. 本報告書で行った追加分析について	2
4. 本報告書における分析方法および結果の示し方	3
第Ⅰ部 ミドルリーダー期の教員の男女別クロス集計	
1. 入力必須項目および SC 項目	7
2. 回答者の仕事や職場環境(Q1～Q15)	9
3. 回答者の状況(Q16～Q44)	24
第Ⅱ部 未就学児がいる教員の男女別クロス集計	
1. 入力必須項目および SC 項目	37
2. 回答者の仕事や職場環境(Q1～Q15)	39
3. 回答者の状況(Q16～Q44)	53
資料編	
1. 調査票	67
2. 基礎集計表	74

はじめに 研究の目的と調査の概要

1. 研究の目的

本報告書は、JSPS 科研費(JP21H00829)の助成による共同研究「ジェンダー視点に基づく教員育成スタンダード化政策の再検討—全国調査をもとにして」(基盤研究(B))において行った全国教員調査について、特に2つの観点から追加分析を行った結果をまとめたものである。

2023年3月発行の調査結果報告書(以下、第1次報告書)でも述べたように、本共同研究の目的は、教員スタンダード化政策における教員のキャリア形成の政策上の問題を、ジェンダーの視点から明らかにすることである。教員育成に関する教育改革は、教員のキャリア形成を官制主導でスタンダード化する方向で進行している(子安 2017 等)。2017年に策定が義務化された「教員育成指標」はその目玉である。だが、統制的な指標で(1)どのような教師が育つのか、(2)教員の自律的な力量形成やキャリア形成の多様性は許容されるのかという点で問題がある¹。

さらに、教員の働き方やありように関する改革はジェンダーの視点を欠いたまま進行している(木村ほか 2019 等)。当事者である教員のおかれている実態をジェンダー視点から十分に把握・検証せずに教員の働き方や教員不足に関する改革が進行することで、女性はこれまで以上に教職の世界から周辺化され排除されかねない(木村 2021、2023)。

以上のことから、本研究では、教員のありように関わる教員政策の改革および動向が、教員のキャリア形成にどのような問題をおよぼすのかを明らかにすることを目的に、教員に関係する種々の改革が進行する現在、男女教員がどのような状況におかれているのかを把握するための全国的なアンケート調査を実施することにした。

2. 調査の概要

第1次報告書で述べた通り、本調査では、全国の国公私立の小・中・高等学校(中等教育学校を含む)・特別支援学校の教員(管理職を含む)を対象に、2022年2月から3月にかけて、リサー

¹ 令和3(2021)年度 基盤研究(B)(一般)研究計画調書より。

チ会社マクロミルへの委託によって、インターネットモニターによるアンケート調査をオンラインで実施した。

マクロミルに調査を依頼するに当たり、対象者の条件として以下【対象者の条件】を設定した。また、校種によって回答者数に偏りが出ないように、「女性かつ小学校教員」「男性かつ特別支援学校教員」等のように、男女別・校種別に回答者数をおおよそ均等に割り付けることとし、全体の回収目標数を 1,000 サンプル以上として、調査を実施してもらった。最終的に、本調査の有効回答数は 1,112 人(女性 563 人、男性 549 人、その他0人)であった。

【対象者の条件】

- a. 全国の国公立の小・中・高等学校(中等教育学校を含む)・特別支援学校の教員および学校管理職
- b. 本務教員(いわゆる正規雇用教員)と非常勤等の兼務(いわゆる非正規雇用教員)
- c. 養護教諭や栄養教諭は含まない

アンケート調査項目の主な構成は、以下に示す【アンケート調査の構成】の通りである。各質問項目の男女別クロス集計及び校種別クロス集計結果、基礎集計結果については、第 1 次報告書(<https://isgswe.aiyweb.com/img2/202303.pdf>)を参照いただきたい。

【アンケート調査の構成】

- (1) 入力必須項目および SC 項目:あなたの職業(SC1:養護教諭・栄養教諭はここで回答終了)、年齢(入力必須項目)、現在勤めている学校種(SC2)、自認する性別(SC3:女性・男性・その他から1つ選択)、教員免許状の種類(SC4)、最終学歴等(SC5)
- (2) 仕事や職場環境:現在の職務で負担に感じること等、15 項目(Q1～Q15)
- (3) 回答者自身の勤務先および家庭等での状況:現在の勤務先での採用形態等、29 項目(Q16～Q44)
- (4) 教員のキャリア形成についての自由記述(Q45)

3. 本報告書で行った分析について

第1次報告書で行った分析により、ジェンダー視点を欠いたまま一律にキャリアパタンを標準化する「教員育成指標」によって、ジェンダーセグリゲーションを強化しかねないことが示唆された（木村ほか 2023）。そこで、本報告書では、次の2点に着目してさらに「教員育成指標」政策下における教員のキャリア形成の現況を分析することとした。第1に、管理職に至る前のミドルリーダー期で男女教員がどのような状況にあるか、第2に、未就学児の子どもを持つ男女教員がどのような状況にあるかである。

第1の点については、プレ管理職期であるこの時期に、男女教員の研修経験や職務に差異が生じているのか、あるとすればどのような面で差異が生じているのかを明らかにするものである。本報告書における分析では、「ミドルリーダー期」を、正規採用後の教職年数が9年から 20 年までの公立学校教員（校長・副校長・教頭を除く）として、分析を行っている。

第2の点については、「子育て」や家庭責任が女性に重くのしかかっている（村松・河野編著 2011、河野編著 2017等）ことを踏まえ、未就学の子どもを持つ教員に着目して、男女教員にどのようなキャリア形成の差異がみられるのかを明らかにするものである。

参考まで、本調査においては、子どもがいる場合、未就学児がいるかどうかを教職年数別に見ると、表 a のように、教職年数が少ない教員ほど未就学児がいる割合が高く、教職年数が多い教員ほど未就学児がいない割合が高い。

表a 教職年数と未就学児の有無のクロス集計

	N	未就学児が いる	未就学児が いない	有意確率
8年目まで	134	71.6%	28.4%	<0.001
9～20年まで	219	53.0%	47.0%	
21年目以降	349	4.0%	96.0%	

4. 本報告書における分析方法および結果の示し方

以下、本報告書では、SC 項目及び各質問項目について、2部構成で男女別クロス集計の結果を示していく。まず、第Ⅰ部では、ミドルリーダー期の教員についての男女別クロス集計の結果をみていく。次に、第Ⅱ部では、未就学児の子どもを持つ教員についての男女別クロス集計の結果をみていく。各質問項目の分析については、以下の通り分担した。なお、教員のキャリア形成につ

いての自由記述(Q45)は、本報告書では扱っていない。

【クロス集計の分担】

- ・ SC 項目、Q1、Q2、Q21 から Q24……………木村育恵
- ・ Q3から Q6、Q25、Q26……………河野銀子
- ・ Q7、Q8、Q27、Q28……………田口久美子
- ・ Q9、Q29、Q30……………池上徹
- ・ Q10、Q11、Q31、Q32……………跡部千慧
- ・ Q12 から Q20……………高野良子
- ・ Q33 から Q44……………井上いずみ

本報告書では、第Ⅰ部、第Ⅱ部ともに、クロス集計においてはカイ二乗検定を行い、統計的有意差が認められると判断する水準を $p<0.05$ として分析結果を述べていく。

最後に、第Ⅰ部および第Ⅱ部における表番号の表記方法について述べておく。

本報告書では、表序-3-1や表 30-2等のような表番号が使われている。以下の【表番号の表記方法】に示すように、「表●」の後ろに続く数字(以下の△)は、第Ⅰ部のミドルリーダー期の教員の男女別クロス集計か、第Ⅱ部の未就学児のいる教員の男女別クロス集計かを表している。

【表番号の表記方法】

表●-△

△:第Ⅰ部のミドルリーダー期の男女別クロス集計の場合は「1」、第Ⅱ部の未就学児のいる教員の男女別クロス集計の場合は「2」

なお、1つの質問項目に複数の表を用いる場合は、表 30-2-1 のように、△のうしろに、さらに表の掲載順を示す番号を振った。

参考文献

河野銀子編著(2017)『女性校長はなぜ増えないのか——管理職養成システム改革の課題』勁草書房。

河野銀子・村松泰子編著(2011)『高校の「女性」校長が少ないのはなぜか——都道府県別分析と女

性校長インタビューから探る』学文社。

木村育恵・跡部千慧・河野銀子・田口久美子・池上徹・高野良子・村上郷子・井上いずみ(2019)「教員育成スタンダード化政策の課題——女性教員のキャリア形成に着目して」『北海道教育大学紀要・教育科学編』, 70(1), 53-62.

木村育恵・跡部千慧・村上郷子・河野銀子・田口久美子・池上徹・井上いずみ・高野良子(2021)「教員育成指標は教員の働き方に何を及ぼすか——教員版・ジョブ・ディスクリプションの課題」『北海道教育大学紀要(教育科学編)』, 72(1), 11-19.

木村育恵・池上徹・高野良子・河野銀子・田口久美子・跡部千慧・村上郷子・井上いずみ(2023)「教員の働き方とキャリア形成に関するジェンダー分析～全国教員調査をもとにして～」『山形大学教職・教育実践研究』, 18, 23-30.

子安潤(2017)「教育委員会による教員指標の「スタンダード化」の問題」『日本教師教育学会年報』, 26, 38-45.

第Ⅰ部 ミドルリーダー期の教員の
男女別クロス集計

1. 入力必須項目および SC 項目

本調査では、入力必須項目として、教員の年齢を実数で回答してもらっている。ここでは、回答者の年代別に区分して男女別にその状況を確認していく。

表序-1-1 に示すように、ミドルリーダー期の教員を年代別にクロス集計した結果、統計的有意差がみられ、女性で最も多いのは「20～30 代」であり、男性で最も多いのは 40 代であった。参考まで、本調査では、全般的に男性回答者の年齢が女性よりも高めである。そのことを踏まえつつ、以降の分析結果をみていく必要がある。

表序1-1 男女別・ミドルリーダー期教員の年代

	N	20～30代	40歳代	50・60代	有意確率
女性	133	59.4%	36.1%	4.5%	<0.001
男性	87	29.9%	63.2%	6.9%	

現在勤めている学校種については、各学校種で偏りがないように教員調査を行っているため、表序 2-1 のとおり、男女で有意差はみられない。

表序2-1 男女別・現在勤めている学校種

	N	小学校	中学校	高等学校	特別支援学校	有意確率
女性	133	31.6%	22.6%	21.1%	24.8%	0.931
男性	87	29.9%	20.7%	20.7%	28.7%	

調査では、回答者の有する主たる教員免許状についても尋ねており、普通免許状（専修免許状）、普通免許状（1 種免許状）、普通免許状（2 種免許状）、特別免許状、臨時免許状の 5 つの選択肢に加え、いわゆる民間校長が含まれることも想定して「当てはまるものはない」（表中では「その他」）を加えた 6 つから 1 つ（教員免許状を複数所持する場合は、現在の職種に合った免許状を）選んでもらっている。男女別にクロス集計した結果、表序 3-1 に示すよ

うに、教員が「1 種免許状」を所持していることが分かる。ただ、男女で有意差はみられないものの、専修免許状については、男性の割合が女性の 2 倍を超えている。

表序3-1 男女別・現在の職種に合った教員免許状

	N	専修免許状	1種免許状	2種免許状	その他	有意確率
女性	133	8.3%	85.7%	4.5%	1.5%	0.079
男性	87	17.2%	74.7%	8.0%	0.0%	

なお、回答者の最終学歴は、表序-4-1のように、男女で統計的有意差がみられる。全般的には 4 年制大学卒である割合が最も高く、8 割を超えているが、大学院修士課程修了者の割合は男性に多く、女性の 2 倍以上である。

表序4-1 男女別・最終学歴

	N	4年制大学卒	大学院修士課程修了	教職大学院修了	短期大学卒	その他	有意確率
女性	133	91.7%	6.8%	1.5%	0.0%	0.0%	0.044
男性	87	80.5%	17.2%	2.3%	0.0%	0.0%	

2. 回答者の仕事や職場環境(Q1～Q15)

本調査では、回答者に「あなたの仕事や職場環境についてお尋ねします」として、Q1 から Q15 までの問いを設定した。以下、ミドルリーダー期の教員についての男女別クロス集計の結果をみていく。

(1) 1 年間に本を何冊呼んでいるか【Q1】

Q1 では、1 年間に本(教育雑誌を含む)を何冊読んでいるかについて、「ほとんどない」から「年に 51 冊以上」までの 8 種類から回答してもらっている。その結果、表 1-1 に示したように男女で有意差がみられ、全般的に「年に 1～5 冊」が多いものの、その割合は男性 2 割強に対して女性 4 割と、女性の回答がここに集中している。なお、男性の場合は、「ほとんどない」「年に 6～10 冊」についても、それぞれ 2 割ずつ回答があり、読書数に幅がある。

表1-1 男女別・「Q1 あなたは1年間に本(教育雑誌を含む)を何冊読んでいますか」

	女性	男性
N	133	87
ほとんどない	12.8%	21.8-%
年に1～5冊	42.9%	27.6%
年に6～10冊	15.8%	20.7%
年に11～20冊	10.5%	12.6%
年に21～30冊	9.0%	10.3%
年に31～40冊	3.8%	1.1%
年に41～50冊	0.0%	4.6%
年に51冊以上	5.3%	1.1%
有意確率	0.018	

(2) 1 年度中に研修にどのくらい参加したか【Q2】

Q2 では、2021 年 4 月以降に各研修にどのくらい参加したのかを、0 から 100 までの実

数で回答してもらっている。分析では、度数分布の状況をもとに回答を 5 つにカテゴライズして男女別のクロス集計を行っている。

男女別クロス集計の結果、表 1-1 に示すように、全般的にどの研修も「0 回」の割合は女性の方が高く、研修の参加回数が 2 回以上になると男性の割合の方が高い傾向がある。有意差がみられたのは「A. 校内研修」と「F. 大学や民間団体等による研修」の 2 つである。「A. 校内研修」は、全般的に「2～5 回」の参加が最も多いが、その割合は男性の方が高く、それ以上の回数についても男性の方が多い。「F. 大学や民間団体等による研修」については、全般的に「0 回」が最も多いが、その割合は女性で有意に高く 9 割近くにのぼっている。

表2-1 男女別・「Q2 2021年4月以降、あなたは次の研修に何回くらい参加しましたか」

	性別(N)	0回	1回	2～5回	6～10回	11回以上	有意確率
A. 校内研修	女性(133)	23.3%	10.5%	35.3%	24.1%	6.8%	0.029
	男性(87)	12.6%	2.3%	43.7%	31.0%	10.3%	
B. 研究授業	女性(133)	36.8%	18.0%	40.6%	4.5%	0.0%	0.130
	男性(87)	21.8%	24.1%	48.3%	5.7%	0.0%	
C. 校内の自主的な勉強サークル	女性(133)	87.2%	2.3%	6.8%	3.8%	0.0%	0.211
	男性(87)	77.0%	5.7%	12.6%	4.6%	0.0%	
D. 校外の自主的な勉強サークル	女性(133)	83.5%	3.0%	9.8%	3.8%	0.0%	0.142
	男性(87)	73.6%	1.1%	18.4%	6.9%	0.0%	
E. 教育委員会主催の研修(法定研修を除く)	女性(133)	57.9%	16.5%	20.3%	5.3%	0.0%	0.123
	男性(87)	47.1%	12.6%	34.5%	5.7%	0.0%	
F. 大学や民間団体等による研修	女性(133)	88.0%	6.0%	30.0%	3.0%	0.0%	0.010
	男性(87)	72.4%	10.3%	13.8%	3.4%	0.0%	

(3)研修が役立った程度【Q3】

Q3 では、教員経験全体を振り返って、A～D のような研修がどの程度役立ったか尋ねている。

まず、各研修の参加経験の有無について確認しておく(表 3-1-1)と、ミドルリーダー期の男女教員は全体的に全教員平均より研修参加経験が高く、男女間に統計的有意差はみられない。参加経験のある回答者が最も多いのは、「C. 教育委員会主催の研修」で男女とも 8 割を超え、これに続く「B. 法定研修」は男女とも 8 割程度で、いずれも男性の方が高い。「A. 校

外の自主的な勉強サークル」や「D. 大学や民間団体による研修」もほぼ 7 割近くが参加した。

表3-1-1 男女別「Q3 これまでの教員経験全体を振り返って、研修はどの程度役に立ちましたか」の研修参加の有無

	性別(N)	1回以上参加した	参加していない	有意確率
A. 校外の自主的な勉強サークル	女性(133)	66.2%	33.8%	0.540
	男性(87)	70.1%	29.9%	
B. 法定研修(初任者研修・10年経験者研修)	女性(133)	78.2%	21.8%	0.686
	男性(87)	80.5%	19.5%	
C. 教育委員会主催の研修(法定研修を除く)	女性(133)	82.7%	17.3%	0.351
	男性(87)	87.4%	12.6%	
D. 大学や民間団体等による研修	女性(133)	63.9%	36.1%	0.439
	男性(87)	69.0%	31.0%	

次に、各研修に参加経験がある回答者が、研修がどの程度役立ったと捉えているか、4 段階で回答を得た結果をみる(表 3-2-1)と、どの質問に対しても男女間の回答傾向に統計的有意差はみられないが、「とても役に立った」が最も高いのは「A. 校外の自主的な勉強サークル」で、これに「D. 大学や民間団体による研修」が続き、いずれも女性の方が高い。一方、「B. 法定研修」や「C. 教育委員会主催の研修」が「とても役に立った」と回答したのは男女とも 1 割を下回り、「まったく役に立っていない」が 1 割を超えている。

表3-2-1 男女別・「Q3 これまでの教員経験全体を振り返って、研修はどの程度役に立ちましたか」

	性別(N)	とても役に 立った	やや役に 立った	あまり役に 立っていない	まったく役に 立っていない	有意確率
A. 校外の自主的な 勉強サークル	女性(88)	22.7%	62.5%	12.5%	2.3%	0.444
	男性(61)	14.8%	62.3%	18.0%	4.9%	
B. 法定研修(初任者研 修・10年経験者研修)	女性(104)	8.7%	48.1%	30.8%	12.5%	0.984
	男性(70)	8.6%	45.7%	31.4%	14.3%	
C. 教育委員会主催の 研修(法定研修を除く)	女性(110)	9.1%	53.6%	24.5%	12.7%	0.858
	男性(76)	7.9%	50.0%	30.3%	11.8%	
D. 大学や民間団体 等による研修	女性(85)	18.8%	60.0%	15.3%	5.9%	0.209
	男性(60)	15.0%	50.0%	30.0%	5.0%	

(4)60 歳時点でしていきたい仕事【Q4】

Q4 では、60 歳時点でしていきたい仕事について、「その他」を含む 6 種類から回答してもらっている。表 4-1 に示した通り、10%水準でみれば男女間に有意差がみられる。

最も回答割合が高いのは男女とも「一般教員」であるが、女性では 7 割弱であるのに対し、男性では 6 割弱と 1 割程度の開きがある。また、男女とも全教員の平均(68.9%、57.3%)とほぼ同じであった。これに男女とも「その他主任」が続き、いずれも全教員平均より高く、男性では 2 割に及ぶ。一方、「管理職」と回答した男性は女性の 2 倍以上であるが、男女とも全教員平均より低い。

表4-1 男女別・「Q4 あなたは、60歳時点で、
どのような仕事をしたいですか」

	女性	男性
N	133	86
管理職	6.0%	14.0%
教務主任	2.3%	3.5%
その他主任	15.8%	19.8%
一般教員	68.4%	57.0%
教育行政職員	1.5%	4.7%
その他	6.0%	1.2%
有意確率	0.067	

(5)管理職や行政職になりたくない理由【Q5】

Q5 では、Q4 で「教務主任」「その他主任」「一般教員」と回答した者に対し、管理職や行政職になりたくない理由を尋ねた。回答は、「その他」を含む 10 項目から該当するものすべてを選択してもらった(表 5-1)。男女間に統計的有意差がみられたのは、「部活動に関わりたいから」「学校外での活動等に関わりたいから」の 2 項目である。

回答割合が高かった理由を上位から順にみると、5 位まで男女とも同じであった。最も高かったのは、「ずっと子どもと接していきたいから」で女性は 6 割を超え、全女性教員平均(55.0%)より高くなっている。これに次ぐ「仕事に魅力を感じない」では、男性の回答割合が女性より 5 ポイント高い。3 番目に多い「責任が重すぎる」では、男女とも 3 割以上の回答があり、全教員平均との差はほとんどない。4 番目は男女とも「家事・介護」で、女性の 3 割、男性の 2 割が回答しており、ミドルリーダー男性では、全男性教員平均より約 9 ポイント高くなっている。5 番目の「授業を極めたい」は男性の方が高く、「広域異動させられる」や「学校外での活動に関わりたい」「部活動」等の回答も、男性の方が高かった。

表5-1 男女別・「Q5 管理職や行政職になりたくない理由は何ですか(複数回答)」

	女性	男性	有意確率
N	115	69	
ずっと子どもと接し ていたいから	62.6%	50.7%	0.110
責任が重すぎるから	33.9%	37.7%	0.605
仕事に魅力を感じな いから	42.6%	47.8%	0.491
授業を極めたいから	11.3%	18.8%	0.155
部活動に関わりた いから	1.7%	10.1%	0.010
広域で異動させられ るから	6.1%	14.5%	0.057
学校外での教育活動やNPO・ サークルに関わりた いから	0.0%	4.3%	0.024
家事・介護があるから	29.6%	21.7%	0.245
十分に働いたから	8.7%	10.1%	0.742
その他	2.6%	5.8%	0.274

(6)同僚との関わり方【Q6】

Q6 では、同僚との関わり方として A～G の 7 項目を示し、それぞれについて 4 段階で回答を得た(表 6-1)。男女間に統計的有意差がみられたのは、「D. 困ったときに、同僚教師から援助してもらった」と「G. 同僚と教材を協働で作成したり、交換したりする」の 2 項目で、D. に対して「よくある」と回答した女性は男性の 3 倍近くであった。

また、「よくある」と「たまにある」を合わせてみると、6 割以上の回答が得られなかったのは、「A. 学校を離れてもインフォーマルにつきあう」と回答した男性だけであった。

表6-1 男女別・「Q6 あなたの同僚との関わり方に一番近いものを選んで下さい」

	性別(N)	よくある	たまにある	あまりない	まったくない	有意確率
A. 同僚と学校を離れてもインフォーマルにつきあう	女性(133)	16.5%	46.6%	22.6%	14.3%	0.233
	男性(87)	8.0%	44.8%	28.7%	18.4%	
B. 同僚と教育観や教育方針について語り合う	女性(133)	11.3%	55.6%	24.1%	9.0%	0.406
	男性(87)	14.9%	50.6%	19.5%	14.9%	
C. 同僚の授業を見たり同僚があなたの授業を見たりする	女性(133)	13.5%	57.9%	19.5%	9.0%	0.494
	男性(87)	12.6%	54.0%	27.6%	5.7%	
D. 困った時に、同僚の教師から援助してもらった	女性(133)	39.1%	50.4%	6.0%	4.5%	<0.001
	男性(87)	13.8%	56.3%	20.7%	9.2%	
E. 困っている教師を支援した	女性(133)	27.1%	55.6%	12.0%	5.3%	0.864
	男性(87)	26.4%	52.9%	12.6%	8.0%	
F. 同僚教師に指導・助言した	女性(133)	18.8%	49.6%	24.1%	7.5%	0.679
	男性(87)	21.8%	52.9%	17.2%	8.0%	
G. 同僚と教材を協働で作成したり、交換をしたりする	女性(133)	26.3%	56.4%	12.0%	5.3%	0.035
	男性(87)	16.1%	50.6%	21.8%	11.5%	

(7)職場の雰囲気・状況【Q7】

Q7 では、職場の雰囲気・状況について、4 項目を尋ねている。ミドルリーダー期にある教員について、男女別の結果は表 7-1 のとおりである。

全ての項目で男女差はみられず、「校長・校長・教頭と他の教職員との間で意思の疎通がうまく図られている」かどうかについては、「とても＋ややそう思う」の回答が 5 割以上、「あまり＋全くそう思わない」が 4 割強を占め、回答は男女ともに肯定/否定が拮抗していた。

「校長・教頭が勝手にことがらを決めたり進めたりする」では、男女ともに「とても＋ややそう思う」の回答が 5 割弱であり、この項目も男女共に肯定/否定が拮抗していた。

「校長・教頭からの評価を気にして仕事をしている」では、男女ともおよそ 7 割が「あまり＋全くそう思わない」と回答しており、管理職からの評価をあまり気にしないで仕事をしている様子がうかがえる。

「最終的な責任は管理職がとる」では、「とても＋ややそう思う」が女性で 8 割強、男性では 7 割強を占めており、男女ともに、最終的な責任を管理職にゆだねる傾向がうかがえる。

表7-1 男女別・「Q7 あなたの職場の雰囲気・状況に一番近いものを選んで下さい」

	性別(N)	とてもそう 思う	ややそう思 う	あまりそう 思わない	まったくそ う思わない	有意確率
A. 校長・教頭と他の教 職員との間で意思の疎 通がうまく図られてい る	女性(133)	8.3%	48.1%	31.6%	12.0%	0.886
	男性(87)	11.5%	47.1%	29.9%	11.5%	
B. 校長・教頭が勝手に ことがらを決めたり進 めたりする	女性(133)	16.5%	33.8%	38.3%	11.3%	0.880
	男性(87)	12.6%	36.8%	39.1%	11.5%	
C. 校長・教頭からの 評価を気にして仕事を している	女性(133)	2.3%	25.6%	46.6%	25.6%	0.447
	男性(87)	5.7%	26.4%	39.1%	28.7%	
D. 最終的な責任は 管理職がとる	女性(133)	33.8%	49.6%	11.3%	5.3%	0.184
	男性(87)	26.4%	47.1%	21.8%	4.6%	

(8)昨今の教育政策に関する勤務校での取り組み【Q8】

Q8 では、「子ども・保護者による学校評価・教員評価」、「保護者・地域住民の学校参加」、「人事・給与と連動した教員評価」、「『全国学力・学習状況調査』の結果にもとづく学力向上策」、「GIGA スクール構想」、「防災教育」、「ICT を用いた個別最適な学び」に向けた検討」の7つの取り組みの程度について尋ねている。男女別の結果は表8-1のとおりである。

全ての項目において、半数以上が「かなり+やや取り組んでいる」と回答しており、とりわけ「子ども・保護者による学校評価・教員評価」、「保護者・地域住民の学校参加」は男女とも7割以上が「取り組んでいる」と回答している。

有意差は「GIGA スクール構想」にのみ見られ、女性が「あまり+まったく取り組んでいない」が4割に対し、男性は2割と少ない。

表8-1 男女別・「Q8 あなたの勤務先で次の項目はどのくらい取り組まれていますか」

	性別(N)	かなり取り組んでいる	やや取り組んでいる	あまり取り組んでいない	まったく取り組んでいない	有意確率
A. 子ども・保護者による学校評価・教員評価	女性(133)	25.6%	62.4%	10.5%	1.5%	0.867
	男性(87)	21.8%	66.7%	9.2%	2.3%	
B. 保護者・地域住民の学校参加	女性(133)	15.0%	61.7%	19.5%	3.8%	0.689
	男性(87)	10.3%	62.1%	21.8%	5.7%	
C. 人事・給与と連動した教員評価	女性(133)	5.3%	55.6%	30.8%	8.3%	0.984
	男性(87)	5.7%	56.3%	28.7%	9.2%	
D. 「全国学力・学習状況調査」の結果に基づく学力向上策	女性(133)	7.5%	49.6%	24.8%	18.0%	0.829
	男性(87)	9.2%	43.7%	28.7%	18.4%	
E. GIGAスクール構想	女性(133)	14.3%	44.4%	32.3%	9.0%	0.009
	男性(87)	14.9%	64.4%	18.4%	2.3%	
F. 防災教育	女性(133)	10.5%	54.9%	29.3%	5.3%	0.369
	男性(87)	6.9%	66.7%	21.8%	4.6%	
G. ICTを用いた「個別最適な学び」に向けた検討	女性(133)	16.5%	49.6%	25.6%	8.3%	0.270
	男性(87)	10.3%	50.6%	34.5%	4.6%	

(9) 育児休業やハラスメント対策等に対する勤務校での取り組み【Q9】

Q9 では、回答者が勤める学校で A～J の各項目についてどの程度取り組んでいるか、を 4 段階で尋ねている。この質問は回答者の主観によるもので、事実としてではない点に注意する必要がある。質問内容は育児休業やハラスメント対策、ワーク・ライフ・バランスなどから、ジェンダーの視点を取り入れた教材開発などである。

表 9-1 に示す通り、ミドルリーダー期で有意差がある項目はなかった。

表9-1 男女別・「Q9 あなたの勤務先で次の項目はどのくらい取り組まれていますか」

	性別(N)	かなり取り組んでいる	やや取り組んでいる	あまり取り組んでいない	まったく取り組んでいない	有意確率
A. 男性の育児休業取得の推進	女性(133)	8.3%	24.1%	40.6%	27.1%	0.084
	男性(87)	4.6%	37.9%	40.2%	17.2%	
B. 育児休業からの復帰に向けての支援	女性(133)	5.3%	39.1%	36.8%	18.8%	0.879
	男性(87)	4.6%	40.2%	40.2%	14.9%	
C. (セクシュアル・マタニティ・パタニティ)ハラスメントの防止	女性(133)	11.3%	45.1%	31.6%	12.0%	0.808
	男性(87)	9.2%	51.7%	28.7%	10.3%	
D. ジェンダーの視点を取り入れた教材開発・授業開発	女性(133)	9.0%	41.4%	37.6%	12.0%	0.875
	男性(87)	6.9%	39.1%	42.5%	11.5%	
E. 積極的な研修への声かけや、受けられなかった研修の再申請のサポート	女性(133)	9.0%	38.3%	42.1%	10.5%	0.625
	男性(87)	4.6%	41.4%	41.4%	12.6%	
F. 有給休暇取得の促進	女性(133)	13.5%	42.1%	34.6%	9.8%	0.716
	男性(87)	9.2%	40.2%	40.2%	10.3%	
G. 介護と仕事の両立支援	女性(133)	7.5%	33.8%	45.1%	13.5%	0.482
	男性(87)	9.2%	40.2%	34.5%	16.1%	
H. ワーク・ライフ・バランスに関する研修	女性(133)	6.8%	23.3%	45.1%	24.8%	0.434
	男性(87)	5.7%	33.3%	37.9%	23.0%	
I. 管理職に向けた女性教員の育成	女性(133)	4.5%	29.3%	44.4%	21.8%	0.765
	男性(87)	3.4%	35.6%	39.1%	21.8%	
J. 宿泊を伴う研修への積極的な参加を促す	女性(133)	3.0%	21.8%	50.4%	24.8%	0.755
	男性(87)	4.6%	25.3%	43.7%	26.4%	

(10)回答者の取り組み【Q10】

Q10 では、回答者が A～D にどの程度、取り組んでいるかを 4 段階で尋ねている。

表 10-1 に示した通り、男女とも「取り組んでいない」が過半数となるものはない。取り組んでいると回答した回答者が最も多いのは、「C. ICT 機器を用いた機器」で、男女とも「かなり取り組んでいる」と「やや取り組んでいる」を合わせると、7 割を超える。これに続く「D. 観点別評価」は、「かなり取り組んでいる」と「やや取り組んでいる」を合わせると、女性が 69.1%、男性が 66.6%であった。どの取り組みも男性より女性の方が取り組んでいると回答した回答者の割合が高いが、統計的有意差はみられない。

表10-1 男女別・「Q10 あなたは次のことにどのくらい取り組んでいますか」

	性別(N)	かなり取り組んでいる	やや取り組んでいる	あまり取り組んでいない	まったく取り組んでいない	有意確率
A. アクティブラーニング	女性(133)	15.8%	51.1%	29.3%	3.8%	0.877
	男性(87)	13.8%	48.3%	34.5%	3.4%	
B. 新型コロナウイルス感染症による休校時のオンライン授業	女性(133)	14.3%	41.4%	29.3%	15.0%	0.865
	男性(87)	16.1%	35.6%	32.2%	16.1%	
C. ICT機器を用いた授業	女性(133)	24.1%	54.9%	15.0%	6.0%	0.789
	男性(87)	28.7%	48.3%	17.2%	5.7%	
D. 観点別評価	女性(133)	19.4%	49.7%	22.2%	8.7%	0.989
	男性(87)	20.2%	46.4%	25.9%	7.5%	

(11)教職に対する回答者の考え【Q11】

Q11 では、A～M に関する回答者の考えを 4 段階で回答してもらっている。表 11-1 に示した通り、「C. 教員は、精神的に気苦労の多い仕事だ」と「D. 教員は、子どもに接する喜びのある仕事だ」「E. 教員は、やりがいのある仕事だ」「G. 教員は、自分の考えにそって自律的にやれる仕事だ」の回答において、男女間に有意な差がみられた。

「C. 教員は、精神的に気苦労の多い仕事だ」と「D. 教員は、子どもに接する喜びのある仕事だ」「E. 教員は、やりがいのある仕事だ」は、女性の方が男性よりも、「そう思う」と回答する傾向がある。

特に、「C. 教員は、精神的に気苦労の多い仕事だ」に対しては、女性の回答割合が「とてもそう思う」と「そう思う」を合わせると 95.5%（「あまりそう思わない」と「そう思わない」を合わせると 4.6%）だったのに対し、男性の回答割合は、「とてもそう思う」と「そう思う」を合わせると 88.5%（「あまりそう思わない」と「そう思わない」を合わせると 11.5%）だった。

「G. 教員は、自分の考えにそって自律的にやれる仕事だ」は、男性の方が「そう思う」と回答する傾向にある。一方、「とてもそう思う」に限定すると、女性 15.5%、男性 3.4%で女性の方が多く回答した。

表11-1 男女別・「Q11 あなたの考えに一番近いものを選んで下さい」

	性別(N)	とてもそう 思う	ややそう思 う	あまりそう 思わない	まったくそ う思わない	有意確率
A. 教員は、社会的に 尊敬される仕事だ	女性(133)	7.5%	42.1%	36.8%	13.5%	0.907
	男性(87)	10.3%	40.2%	35.6%	13.8%	
B. 教員は、経済的に 恵まれた仕事だ	女性(133)	12.8%	46.6%	33.1%	7.5%	0.172
	男性(87)	4.6%	46.0%	42.5%	6.9%	
C. 教員は、精神的に 気苦労の多い仕事だ	女性(133)	69.2%	26.3%	2.3%	2.3%	0.011
	男性(87)	49.4%	39.1%	9.2%	2.3%	
D. 教員は、子どもに 接する喜びのある仕事だ	女性(133)	45.9%	41.4%	9.8%	3.0%	0.018
	男性(87)	25.3%	54.0%	17.2%	3.4%	
E. 教員は、やりがい のある仕事だ	女性(133)	44.4%	39.8%	12.0%	3.8%	0.046
	男性(87)	26.4%	50.6%	14.9%	8.0%	
F. 教員は、自己犠牲 を強いられる仕事だ	女性(133)	47.4%	41.4%	9.8%	1.5%	0.962
	男性(87)	44.8%	42.5%	11.5%	1.1%	
G. 教員は、自分の考 えにそって自律的に やれる仕事だ	女性(133)	15.8%	45.1%	34.6%	4.5%	0.023
	男性(87)	3.4%	58.6%	32.3%	5.7%	
H. 教員は、高度の専 門的知識・技能が求 められる仕事だ	女性(133)	36.8%	50.4%	10.5%	2.3%	0.244
	男性(87)	24.1%	58.6%	14.9%	2.3%	
I. 教員は、高い倫理 観が強く求められる 仕事だ	女性(133)	44.4%	45.9%	6.8%	3.0%	0.437
	男性(87)	34.5%	52.9%	10.3%	2.3%	
J. 教員は、「自分らし さ」を表現できる仕事だ	女性(133)	12.0%	45.1%	34.6%	8.3%	0.320
	男性(87)	18.4%	44.8%	25.3%	11.5%	
K. 教員は、はっきり とした成果を問われ る仕事だ	女性(133)	13.5%	36.8%	41.4%	8.3%	0.345
	男性(87)	13.8%	41.4%	31.0%	13.8%	
L. 教員は、割り当て た役割に専心する仕事だ	女性(133)	12.8%	46.6%	30.1%	10.5%	0.805
	男性(87)	13.8%	46.0%	33.3%	6.9%	
M. 教員は、教師以外の 人々との関係づくりが 欠かせない仕事だ	女性(133)	31.6%	50.4%	14.3%	3.8%	0.536
	男性(87)	23.0%	55.2%	18.4%	3.4%	

(12) 教職生活に関する現時点の考え【Q12】

Q12 では、教職生活にかかわる A～E の 5 項目について、現時点で、どのように考えているかを 4 段階で尋ねている。

表 12-1 に示すように、ミドルリーダー期の男女別でクロス集計した結果、「C. 毎日が忙しい」の項目で統計的有意差が確認され、男性より女性により高い多忙感がうかがわれる。

「とても＋ややそう思う」の回答割合の合計が、5 項目すべてで男性より女性のほうが 2～10 ポイント高い結果である。男性以上に女性は、「やりがい」(8 割強)を感じている一方で、「慢性的疲れ」(9 割弱)と「毎日が忙しい」(9 割強)をより強く感じていることが示唆される。

表12-1 男女別・「Q12 あなたは、現時点で次のことをどのように考えていますか」

	性別(N)	とてもそう 思う	ややそう 思う	あまりそう 思わない	まったく 思わない	有意確率
A. 教師になってよかった	女性(133)	33.8%	45.9%	15.0%	5.3%	0.269
	男性(87)	26.4%	49.4%	12.6%	11.5%	
B. 慢性的に疲れを感じる	女性(133)	47.4%	42.9%	9.0%	0.8%	0.054
	男性(87)	41.4%	35.6%	19.5%	3.4%	
C. 毎日が忙しい	女性(133)	54.9%	38.3%	4.5%	2.3%	0.043
	男性(87)	43.7%	43.7%	12.6%	0.0%	
D. 教師を辞めたい	女性(133)	17.3%	30.1%	33.8%	18.8%	0.476
	男性(87)	13.8%	23.0%	39.1%	24.1%	
E. やりがいがある	女性(133)	30.8%	52.6%	12.0%	4.5%	0.304
	男性(87)	25.3%	49.4%	14.9%	10.3%	

(13) 負担を感じる職務【Q13】

Q13 では、負担を感じる職務について「その他」「負担を感じるものがない」を含む 10 項目から該当するものすべて選んでもらった(表 13-1)。ミドルリーダー期の男女別でクロス集計した結果、表に示すように、統計的有意差は確認されなかった。

負担を感じる職務については、10 項目中最も高い負担職務は、「保護者への対応」で男女ともに 6 割が回答している。2 番目は、女性は調査・報告書等の事務作業(5 割弱)、男性は校務分掌(6 割弱)、3 番目は、女性は生徒指導(5 割弱)、男性は調査・報告書等の事務作業(5 割強)と、男女で負担を感じる職務に若干の違いがある。

表13-1 ミドルリーダー期の男女別・「Q13 あなたが負担に感じる項目をすべて選んで下さい」

	女性	男性	有意確率
N	133	87	
生徒指導	48.9%	42.5%	0.356
授業準備	30.1%	29.9%	0.976
校務分掌	45.9%	58.6%	0.064
部活動	38.3%	26.4%	0.068
保護者への対応	60.9%	60.9%	0.998
管理職への対応	20.3%	25.3%	0.385
管理的業務	3.8%	5.7%	0.489
調査・報告等の事務作業	49.6%	52.9%	0.637
その他	1.5%	3.4%	0.344
負担を感じるものがない	3.0%	1.1%	0.366

(14) 教師を辞めたいと思ったことがあるか【Q14】

先の Q12 では、現在、辞めたいと思っているかを尋ねたが、Q14 では、過去に教師を辞めたいと思ったことの有無を回答してもらった。

表 14-1 に示すように、ミドルリーダー期の男女別でクロス集計した結果、統計的に有意な差が確認された。男女とも 6～7 割を超えて辞めたいと思ったことが「ある」と回答しているが、回答割合は女性に高く 13 ポイントの開きがあった。

表14-1 男女別・「Q14 あなたは、過去に教師を辞めたいと思ったことがありますか」

	N	ある	ない	有意確率
女性	133	75.2%	24.8%	0.038
男性	87	62.1%	37.9%	

(15) 教師を辞めたいと思った理由【Q15】

Q15 では、Q14 で「ある」の回答者に、辞めたいと思った理由について、「その他」を含む 6

項目から該当するものすべてを選んでもらっている。

表 15-1 で示したように、ミドルリーダー期の男女別では、「出産したから」と「職務上の理由」の 2 項目に統計的有意差が確認された。前者の「出産したから」は、女性の回答割合は 3 割を超え、回答割合が低い男性との差は 31 ポイントとなっている。一方 6 項目中辞めたいと思った理由最多の「職務上の理由」は、男性は 7 割を大きく超えているが、女性は 5 割弱と男女で 29 ポイントの開きがある。残り 4 項目の「介護を抱えたたら」「転職を考えたから」「自分自身の病気のため」「その他」は男女での差は小さく、いずれも 2 割を下回る回答割合であった。

表15-1 男女別・「Q15(Q14が「ある」の場合)それはなぜですか(複数回答)」

	N	出産したから	介護を抱えたから	転職を考えたから	職務上の理由	自分自身の病気のため	その他
女性	100	31.0%	3.0%	12.0%	47.0%	17.0%	19.0%
男性	54	0.0%	0.0%	16.7%	75.9%	14.8%	11.1%
有意確率		<0.001	0.199	0.421	0.001	0.726	0.205

3. 回答者の状況(Q16～Q44)

本調査では、「あなたについてお尋ねします」として、回答者の置かれている状況について、Q16 から Q44 まで尋ねた。ミドルリーダー期の教員についての男女別クロス集計の結果をみていく。

(1)現在の勤務先都道府県【Q16】

Q16 では、現在の勤務先都道府県を尋ねている。記入された都道府県を「北海道東北」「関東」「中部」「近畿」「中国四国」「九州沖縄」地方の 6 つにカテゴライズしている。ミドルリーダー期の男女別クロス集計した結果、表 16-1 にみるように、統計的に有意な差は確認されなかった。突出した地方はなく、男女とも、最多は関東地方の 3 割前後で、中国四国地方が 1 割弱で最小であった。

表16-1 ミドルリーダー期の男女別・「Q16 現在の勤務先都道府県はどこですか。」

	N	北海道東北 地方	関東地方	中部地方	近畿地方	中国四国地 方	九州沖縄地 方	有意確率
女性	133	12.0%	36.1%	22.6%	17.3%	6.0%	6.0%	0.766
男性	87	11.5%	28.7%	20.7%	24.1%	6.9%	8.0%	

(2)これまでの教員歴【Q18】

Q18 では、これまでの教員歴(年数)について、臨時採用(非常勤)年数を尋ね、実年数で回答してもらった。「非常勤の期間はなし」、「1 年」、「2～5 年」、「6 年以上」の 4 つにカテゴライズしている。

表 17-1-1 に示すように、ミドルリーダー期の男女別でのクロス集計の結果、統計的に有意な差はなかったが、男女ともに「非常勤の期間はなし」が最多で 7 割を超え、男性(7 割強)より女性(8 割弱)に高く 4 ポイントの開きがある。一方、非常勤経験の女性最多は、「1 年」(1 割)、男性最多は「2～5 年」(2 割弱)であり、「6 年以上」はほとんどいなかった。

表17-1-1 男女別・「Q18これまでの教員歴(年数)をお答え下さい(臨時採用(非常勤))」

	N	非常勤の期間 はなし	1年	2～5年	6年以上	有意確率
女性	133	78.9%	10.5%	9.8%	0.8%	0.520
男性	87	74.7%	8.0%	16.1%	1.1%	

次に、これまでの教員歴(年数)について、臨時採用(常勤)年数を尋ね、実年数で回答してもらっている。「非常勤の期間はなし」、「1 年」、「2～5 年」、「6 年以上」の 4 つにカテゴライズしている。

表 17-1-2 に示すように、ミドルリーダー期の男女別でのクロス集計の結果、統計的に有意な差はなかった。「臨時採用歴(常勤)の期間はなし」の回答が男女とも 6 割前後で最も多く、男性より女性に 8 ポイント高かった。一方、臨時採用(常勤)「1 年」「2～5 年」「6 年以上」の経験年数は、1 年は、女性に高く、「2～5 年」と「6 年以上」は男性にそれぞれ 3 から 5 ポイント高かった。

表17-1-2 男女別・「Q18これまでの教員歴(年数)をお答え下さい(臨時採用(常勤))」

	N	臨時採用(常勤) の期間は なし	1年	2～5年	6年以上	有意確率
女性	133	60.9%	15.8%	20.3%	3.0%	0.400
男性	87	52.9%	14.9%	25.3%	6.9%	

(3)正規採用までに何回採用試験を受けたか【Q19】

Q19 では、正規の採用までに、何回、採用試験を受けたかを、0 から 100 までの実数で回答してもらっている。分析では、回答の度数分布の状況をもとに回答を 4 つにカテゴライズしている。表 18-1 に示すように、ミドルリーダー期の男女別でのクロス集計の結果、統計的に有意な差が確認された。正規の採用までに受けた採用試験の回数は、女性の半数以上(5 割強)が 1 回と回答し、男性 1 回(2 割強)の 2 倍で、男女で差が開いている。

表18-1 男女別・「Q19あなたは、正規の採用までに、何回、採用試験を受けましたか」

	N	1回	2回	3～5回	6回以上	有意確率
女性	133	53.4%	15.8%	24.8%	6.0%	0.001
男性	87	27.6%	29.9%	28.7%	13.8%	

(4)教員以外のキャリアはあるか【Q20】

Q20では、教員以外のキャリア経験の有無について尋ねている。表19-1に示すように、ミドルリーダー期の男女別クロス集計の結果、統計的に有意な差が確認された。教員以外のキャリア経験については、男女とも6～7割を超えて「ない」と回答し、女性が13ポイント高い結果である。

表19-1 男女別・「Q20教員以外のキャリアの経験はありますか」

	N	ある	ない	有意確率
女性	133	20.3%	79.7%	0.007
男性	87	36.8%	63.2%	

(5)教職を一度退職して再度教職に就いたことはあるか【Q21】

Q21では、教職を一度退職して再度教職に就いたことがあるかどうかを尋ねている。表21-1に示すように、教職を一度退職して、その後、再度教職に就いた経験が「ない」ものは、男女とも8割以上にのぼる。男女における統計的な有意差はみられない。

表20-1 男女別・「Q21教職を一度退職して、その後、再度教職に就いた経験はありますか」

	N	ある	ない	有意確率
女性	133	12.0%	88.0%	0.345
男性	87	8.0%	92.0%	

(6)他都道府県で就職、退職し、他都道府県に就職した経験【Q22】

Q22 では、他都道府県で就職し、退職後、他都道府県に就職した経験を尋ねている。表22-1に示すように、他都道府県で就職し、退職して、他都道府県に就職した経験が「ない」ものは、男女とも 8 割以上にのぼる。男女における統計的な有意差はみられない。

表21-1 男女別・「Q22他都道府県で就職し、退職して、他都道府県に就職した経験はありますか」

	N	ある	ない	有意確率
女性	133	18.0%	82.0%	0.708
男性	87	16.1%	83.9%	

(7)現在の職名【Q25】

Q25 では現職名を尋ねている。現職には男女間に顕著な統計的な有意差があり、女性では 9 割近くが一般教諭であるのに対し、男性では 7 割にとどまる。

表22-1 男女別・「Q25あなたの現在の職名をお答え下さい」

	N	主幹教諭・指導教諭・主任・首席教諭など	教諭	有意確率
女性	133	11.3%	88.7%	<0.001
男性	87	31.0%	69.0%	

(8)現在学級担任をしているか【Q26】

Q26 では学級担任の有無を尋ねている。男女とも 6 割前後が「している」と回答したが、統計的な有意差は見られない。

表23-1 男女別・「Q26あなたは現在学級担任をしていますか」

	N	している	していない	有意確率
女性	133	59.4%	40.6%	0.570
男性	87	63.2%	36.8%	

(9)現在部活動の顧問をしているか【Q27】

Q27 では、現在部活動の顧問をしているかどうかを尋ねている。表 24-1 に示すように、ミドルリーダー期の男女別では有意差は見られず、ともに部活動の顧問をしているのは 4 割強であった。

表24-1 男女別・「Q27あなたは現在部活動の顧問をしていますか」

	N	している	していない	有意確率
女性	133	42.1%	57.9%	0.950
男性	87	42.5%	57.5%	

(10)現在教職大学院に在学しているか【Q28】

Q28 では、現在教職大学院に在学しているかを尋ねている。表 25-1 に示すように、ミドルリーダー期の教員は男女ともにほとんどが教職大学院には在学しておらず、統計的有意差もみられない。

表25-1 男女別・「Q28あなたは現在教職大学院に在学していますか」

	N	している	していない	有意確率
女性	133	1.5%	98.5%	0.825
男性	87	1.1%	98.9%	

(11)担当教科(中・高のみ)【Q29】

Q29 では、中学校・高等学校の教員を対象に、担当教科を複数回答で尋ねている。表 26-1 の通り、ミドルリーダー期で有意差がある教科はなかった。

表26-1 男女別・「Q29中・高の先生方にお尋ねします。
担当教科をお答え下さい(複数回答)」

	女性	男性	有意確率
N	58	36	
国語	15.5%	13.9%	0.830
社会・地理歴史・公民	6.9%	13.9%	0.260
数学	13.8%	27.8%	0.090
理科	10.3%	19.4%	0.210
音楽	3.4%	2.8%	0.860
美術・芸術	1.7%	0.0%	0.430
保健体育	10.3%	8.3%	0.750
家庭科・技術家庭科	6.9%	2.8%	0.390
英語(外国語)	24.1%	11.1%	0.120
情報	3.4%	0.0%	0.260
総合的な学習(探究)の時間	13.8%	8.3%	0.420
特別の教科道徳	10.3%	2.8%	0.170
専門学科の教科(商業・工業・農業・水産など)	3.4%	0.0%	0.260
その他	1.7%	0.0%	0.430

(12)担当教科のネットワークについて【Q30】

Q30 では、校種を問わず担当教科の学内外のネットワークの有無について尋ねている。

表 27-1 の通り、ミドルリーダー期で有意差はなかった。

表27-1 男女別・「Q30 担当教科の学校内外のネットワークはありますか」

	N	ある	ない	有意確率
女性	108	53.7%	46.3%	0.620
男性	82	57.3%	42.7%	

(13)これまでの異動経験回数【Q31】

Q31では、回答者がこれまでの異動の回数を入力している。表28-1に示した通り、「一度もない」「1回」は、女性の方が回答する傾向にあり、「2～5回」「6回以上」は、男性の方が回答する傾向にあるが、統計的有意差はみられない。

表28-1 男女別・「Q31これまで、異動は何回経験しましたか」

	N	一度もない	1回	2～5回	6回以上	有意確率
女性	133	6.0%	27.1%	36.9%	3.0%	0.299
男性	87	1.1%	24.1%	71.3%	3.4%	

(14)これまでの転居を伴う異動経験回数【Q32】

Q32では、回答者がこれまでの転居を伴う異動の回数を入力している。表29-1に示した通り、「一度もない」は、女性の方が回答する傾向にあり、「1回」「2～5回」「6回以上」は、男性の方が回答する傾向にあるが、統計的有意差はみられない。

表29-1 男女別・「Q32これまで、転居を伴う異動は何回経験しましたか」

	N	一度もない	1回	2回	3回以上	有意確率
女性	133	60.9%	17.3%	11.3%	10.5%	0.630
男性	87	52.9%	23.0%	13.8%	10.3%	

(15)現在担っている主任または主事の役割【Q33】

Q33では、「あなたが現在担っている主任または主事の役割はあるか」を尋ねている。回答は、「担っていない」を含む7項目から該当するものすべてを選択してもらった(表30-1)。

全般的に、「保健主事」や「その他の主任・主事」を除き、女性より男性の方が主任の割合が高い。

男女とも「主任や主事を担っていない」が最も多く、女性は約6割、男性は約4割であった。これに男性では「学年主任」、「生活指導主事」が、女性では「学年主任」、「その他の主任・主事の役割」が続く。

表30-1 男女別・「Q33あなたが現在担っている主任または主事の役割はありますか(当てはまるものすべて)」

	N	教務主任	学年主任	保健主事	生徒指導主事	進路指導主事	その他の主任・主事の役割	担っていない
女性	133	2.3%	14.3%	2.3%	0.8%	3.0%	12.8%	67.7%
男性	87	8.0%	31.0%	0.0%	11.5%	5.7%	6.9%	41.4%
有意確率		0.044	0.003	0.158	<0.001	0.316	0.163	<0.001

(16) 平均的な1日の在職時間【Q34】

Q34 では、平均的な1日の在職時間を「8 時間未満」から「16 時間以上」までの6段階から回答してもらった(表31-1)。

最も回答割合が高いのは男女とも「8 時間以上 10 時間未満」で、女性は5割、男性は4割であった。「8 時間以上から 12 時間未満」では、男女とも約8割であった。さらに、「12 時間以上」は男性が1割であった。「16 時間以上」は女性が若干多い。

一方、「8 時間未満」は、女性の1割が回答している。男女で差が大きかったのは、「10 時間以上から 12 時間未満」で、男性の方が8ポイント高かった。

表31-1 男女別・「Q34あなたの平均的な1日の在職時間は何時間ですか」

	女性	男性
N	133	87
8時間未満	14.3%	8.0%
8時間以上10時間未満	51.9%	46.0%
10時間以上12時間未満	27.8%	35.6%
12時間上14時間未満	3.8%	6.9%
14時間以上16時間未満	0.0%	2.3%
16時間以上	2.3%	1.1%
有意確率	0.180	

(17) 通勤時間【Q35】

Q35 では、「通勤時間はどのくらいか」を「30 分未満」から「2 時間以上」の 5 段階から回答してもらっている(表 32-1)。

最も回答割合が高いのは、女性が「30 分未満」で、男性では「30 分以上 1 時間未満」で、男女とも約 4 割であった。「1 時間未満」は男女とも約 8 割であった。

表32-1 男女別・「Q35あなたの通勤時間はどのくらいですか」

	N	30分未満	30分以上1時間未満	1時間以上1時間30分未満	1時間30分以上2時間未満	2時間以上	有意確率
女性	133	42.9%	39.8%	14.3%	1.5%	1.5%	0.785
男性	87	36.8%	41.4%	17.2%	3.4%	1.1%	

(18) 配偶者の有無【Q36】

Q36 では、「配偶者(事実婚を含む)がいるか」の回答を得た。表 33-1 に示すように、男女とも約 8 割が、「配偶者(事実婚を含む)がいる」と回答しており、男性が 7 ポイント多い。

表33-1 男女別・「Q36あなたは配偶者がいますか(事実婚を含む)」

	N	いる	いない	有意確率
女性	133	78.9%	21.1%	0.255
男性	87	85.1%	14.9%	

(19) 配偶者の職種および就労形態【Q37】

Q37 では、「配偶者(事実婚を含む)がいる」場合、「配偶者の職種、就労状況および就労形態」を尋ねた。表 34-1 に示すように、男女とも「配偶者が教員ではない」割合が 6 割と多く、男性が 7 ポイント多い。

表34-1 男女別・「Q37(Q36で「いる」場合)配偶者の職種、就労状況および就労形態」

	N	教員	教員ではない	有意確率
女性	105	40.0%	60.0%	0.301
男性	74	32.4%	67.6%	

(20) 配偶者が教員の場合、本務教員か否か【Q38】

Q38 では、「配偶者の職種が教員」の場合、「本務教員」か「臨時採用・臨時講師等の兼務教員」かの回答を得た。表 35-1 に示すように、男女とも「本務教員」が 9 割以上であった。

表35-1 男女別・「Q38(Q37で「教員」の場合)次のどちらに当てはまりますか」

	N	本務教員	臨時採用・臨時講師等の兼務教員	有意確率
女性	42	97.6%	2.4%	0.264
男性	24	91.7%	8.3%	

(21) 配偶者が教員でない場合の就労形態等【Q39】

Q39 では、「配偶者の職種が教員ではない」場合、「就労状況および就労形態」を尋ねた。表 36-1 に示すように、男性の約 5 割弱が「無職」と回答、これに「正規雇用者」「非正規雇用者」が 2 割と続く。一方、女性の 8 割強が「正規雇用者」と回答し、男性は 2 割弱と女性の約 4 分の 1 で、大きな差が見られる。

表36-1 男女別・「Q39(Q37が「教員ではない」の場合)当てはまるものを選んで下さい」

	N	無職	正規雇用者	非正規雇用者	自営・家族従業・自由業	その他	有意確率
女性	63	1.6%	88.9%	1.6%	7.9%	0.0%	<0.001
男性	50	48.0%	22.0%	20.0%	10.0%	0.0%	

(22) 家事・育児・介護等の役割をどの程度担っているか【Q40】

Q40 では「現在、家事・育児・介護等、家庭の役割をどの程度になっているか」(家庭で必要な労力を 100%として)を回答してもらった(表 37-1)。

最も回答が多かったのは、女性では「半分以上はあなたがしている(60～80%程度)」が 4 割弱と多く「ほとんどあなたがしている(90～100%程度)」を合わせると、7 割を超える。一方男性では「半分以下だがあなたもしている(20～40%程度)」が 4 割強と最も回答が多

かった。さらに「ほとんどしていない(0～10%程度)」を合わせると約 7 割であった。「半分以下だがあなたもしている(20～40%程度)」が、男女で 40 ポイントの大きな差がみられた。女性教員の多くが、家庭の役割を多く担っていることがうかがえる。

表37-1 男女別・「Q40あなたは現在、家事・育児・介護等、あなたのご家庭の役割をどの程度になっていますか
(家庭に必要な労力を100%として)」

	N	ほとんどあなたがしている(90～100%程度)	半分以上はあなたがしている(60～80%程度)	ほぼ半分あなたがしている(50%程度)	半分以下だがあなたもしている(20～40%程度)	あなたはほとんどしていない(0～10%程度)	有意確率
女性	133	37.6%	39.1%	15.8%	4.5%	3.0%	<0.001
男性	87	10.3%	5.7%	13.8%	44.8%	25.3%	

(23) 子どもがいるかどうか【Q41】

Q41 では「子どもがいるかどうか」の回答を得た。表 38-1 に示すように、男女とも「子どもがいる」が 7 割を超えている。

表38-1 男女別・「Q41あなたにはお子さんはいますか」

	N	いる	いない	有意確率
女性	133	71.4%	28.6%	0.979
男性	87	71.3%	28.7%	

(24) 子どもの人数【Q42】

Q42 では「子どもがいる」場合、子どもの人数を実数で回答してもらった。表 39-1 に示すように、最も回答が多かったのは、男性の約 4 割が「二人」で、女性の 4 割が「一人」であった。男女で大きく差があったのは、「一人」で女性が 10 ポイント高かった。

表39-1 男女別・「Q42(Q41で「いる」場合)お子さんの数は何人ですか」

	N	一人	二人	三人以上	有意確率
女性	95	44.2%	38.9%	16.8%	0.432
男性	62	33.9%	46.8%	19.4%	

(25) 小学生未満の子どもがいるかどうか【Q43】

Q43 では「子どもがいる」場合、「小学生未満の子どもがいるか」を尋ねた。表 40-1 に示すように、「小学生未満の子どもがいる」女性は 8 割弱で、一方、男性は 4 割で、34 ポイントほど、大きな差が見られる。

表40-1 男女別・「Q43(Q41で「いる」場合)小学生未満のお子さんはいますか」

	N	いる	いない	有意確率
女性	95	77.9%	22.1%	<0.001
男性	62	43.5%	56.5%	

(26) 現在、家族の介護をしているか【Q44】

Q44 では、「現在、家族の介護(同居・別居どちらでも)をしているか」を回答してもらった。表 41-1 に示すように、「現在、家族の介護(同居・別居どちらでも)をしていない」が男女とも約 9 割強であった。

表41-1 男女別・「Q44現在、ご家族の介護(同居・別居どちらでも)をしていますか」

	N	している	していない	有意確率
女性	133	3.8%	96.2%	0.904
男性	87	3.4%	96.6%	

第Ⅱ部 未就学児がいる教員の 男女別クロス集計

1. 入力必須項目および SC 項目

本調査では、入力必須項目として、教員の年齢を実数で回答してもらっている。ここでは、回答者の年代別に区分して、未就学児を持つ教員の状況を男女別に確認していく。

表序 1-2 に示すように、年代別に区分した男女別クロス集計結果をみると、未就学児がいる教員は、男女ともに「31～40 歳」が最も多いが、特に女性の割合が有意に高い。「20～30 歳」に占める女性教員の割合も、男性よりも有意に高い。第 I 部でも述べたが、本調査の回答者が、若い年代には女性が多く、年齢の高い世代には男性が多いことを踏まえておく必要がある。

表序1-2 未就学児がいる男女別・教員の年代

	N	20～30歳	31～40歳	41～50歳	51～60歳	有意確率
女性	159	24.5%	61.6%	13.2%	0.6%	0.002
男性	67	13.4%	52.2%	29.9%	4.5%	

現在勤めている学校種については、各学校種で偏りがないように教員調査を行っているため、表序 2-2 のとおり、男女で有意差はみられない。

表序2-2 未就学児がいる男女別・現在勤めている学校種

	N	小学校	中学校	高等学校	特別支援学校	有意確率
女性	159	30.8%	27.7%	20.8%	20.8%	0.158
男性	67	22.4%	22.4%	20.9%	34.3%	

次に、回答者の有する主たる教員免許状についてみていく。本調査では、普通免許状（専修免許状）、普通免許状（1 種免許状）、普通免許状（2 種免許状）、特別免許状、臨時免許状および「当てはまるものはない」の 6 つから 1 つ（教員免許状を複数所持する場合は、現在の職種に合った免許状を）選んでもらっている。男女別にクロス集計した結果、表序 3-2 に示す

ように男女で有意差はみられず、教員の 7 割が「1 種免許状」を所持していることが分かる。

表序3-2 未就学児がいる男女別・現在の職種に合った教員免許状

	N	専修免許状	1種免許状	2種免許状	その他	有意確率
女性	159	11.9%	76.1%	6.3%	5.7%	0.154
男性	67	14.9%	70.1%	13.4%	1.5%	

回答者の最終学歴についても、表序 4-2 のように有意差はみられない。男女ともに 4 年生大学卒が最も多く、8 割強にのぼる。

表序4-2 未就学児がいる男女別・最終学歴

	N	4年制大学卒	大学院修士課程修了	教職大学院修了	短期大学卒	その他	有意確率
女性	159	85.5%	7.5%	2.5%	3.8%	0.6%	0.415
男性	67	86.6%	11.9%	0.0%	1.5%	0.0%	

2. 回答者の仕事や職場環境(Q1～Q15)

本調査では、回答者に「あなたの仕事や職場環境についてお尋ねします」として、Q1 から Q15 までの問いを設定した。以下、未就学児を持つ教員についての男女別クロス集計の結果をみていく。

(1) 1 年間に本を何冊呼んでいるか【Q1】

Q1 では、1 年間に本(教育雑誌を含む)を何冊読んでいるかについて、「ほとんどない」から「年に 51 冊以上」までの 8 種類から回答してもらっている。その結果、表 1-2 に示したように有意差はみられず、男女ともに「年に 1～5 冊」が最も多く、次いで多いのは「ほとんどない」である。

表1-2 未就学児がいる男女別・「Q1 あなたは1年間に本(教育雑誌を含む)を何冊読んでいますか」

	女性	男性
N	159	67
ほとんどない	20.1%	22.4%
年に1～5冊	40.3%	32.8%
年に6～10冊	10.7%	19.4%
年に11～20冊	10.7%	13.4%
年に21～30冊	6.9%	7.5%
年に31～40冊	4.4%	1.5%
年に41～50冊	2.5%	0.0%
年に51冊以上	4.4%	3.0%
有意確率	0.442	

(2) 1 年度中に研修にどのくらい参加したか【Q2】

Q2 では、2021 年 4 月以降に各研修にどのくらい参加したのかを、0 から 100 までの実数で回答してもらっている。分析では、度数分布の状況をもとに回答を 5 つにカテゴライズして男女別のクロス集計を行っている。

男女別クロス集計の結果、表 2-2 示したように「A.校内研修」「B.研究授業」「D.校外の自

主的な勉強サークル」の 3 項目で有意差がみられた。いずれも、回数が少ない方(0 回を含む)には女性が、回数が多い方には男性が多い傾向がある。

表2-2 未就学児がいる男女別・「Q2 2021年4月以降、あなたは次の研修に何回くらい参加しましたか」

	性別(N)	0回	1回	2～5回	6回以上	有意確率
A. 校内研修	女性(159)	33.3%	9.4%	30.2%	27.1%	<0.001
	男性(67)	10.4%	3.0%	61.2%	25.4%	
B. 研究授業	女性(159)	44.7%	18.2%	29.6%	7.5%	0.003
	男性(67)	20.9%	35.8%	35.8%	7.5%	
C. 校内の自主的な勉強サークル	女性(159)	84.3%	3.1%	6.9%	5.7%	0.072
	男性(67)	79.1%	10.4%	9.0%	1.5%	
D. 校外の自主的な勉強サークル	女性(159)	85.5%	1.9%	6.9%	5.7%	0.027
	男性(67)	73.1%	9.0%	13.4%	4.5%	
E. 教育委員会主催の研修(法定研修を除く)	女性(159)	67.9%	8.8%	20.8%	2.5%	0.085
	男性(67)	50.7%	10.4%	35.8%	3.0%	
F. 大学や民間団体等による研修	女性(159)	83.6%	6.3%	6.3%	3.8%	0.197
	男性(67)	73.1%	10.4%	13.4%	3.0%	

(3)研修が役立った程度【Q3】

Q3 では、教員経験全体を振り返って、A～D のような研修がどの程度役立ったか尋ねている。

まず、各研修の参加経験の有無について確認しておく(表 3-1-2)と、男女間に統計的に有意な差は見られなかった。しかし、参加経験のある回答者が最も多いのは、男性では「C. 教育委員会主催の研修」で 8 割、女性では「B. 法定研修」と若干の違いがあった。「B. 法定研修」と「D. 大学や民間団体による研修」は僅差であるが、女性のほうがよく参加している。

表3-1-2 未就学児がいる男女別「Q3 これまでの教員経験全体を振り返って、研修はどの程度役に立ちましたか」の研修参加の有無

	性別(N)	1回以上参加した	参加していない	有意確率
A. 校外の自主的な勉強サークル	女性(159)	60.4%	39.6%	0.745
	男性(67)	62.7%	37.3%	
B. 法定研修(初任者研修・10年経験者研修)	女性(159)	74.2%	25.8%	0.866
	男性(67)	73.1%	26.9%	
C. 教育委員会主催の研修(法定研修を除く)	女性(159)	72.3%	27.7%	0.191
	男性(67)	80.6%	19.4%	
D. 大学や民間団体等による研修	女性(159)	64.2%	35.8%	0.834
	男性(67)	62.7%	37.3%	

次に、各研修に参加経験がある回答者が、研修がどの程度役立ったと捉えているか、4段階で回答を得た結果(表 3-2-2)を見たところ、男女間に統計的に有意な差は見られなかった。「とても役に立った」が最も高いのは「A. 校外の自主的な勉強サークル」で、これに「D. 大学や民間団体による研修」が続く。これらの研修では男女とも2割近くが「とても」と回答したが、いずれも女性の方がわずかに高い。「B. 法定研修」や「C. 教育委員会主催の研修」について、「とても役に立った」とする回答は男女とも1割を超え全教員平均よりやや高くなっている。

表3-2-2 未就学児がいる男女別・「Q3 これまでの教員経験全体を振り返って、研修はどの程度役に立ちましたか」

	性別(N)	とても役に立った	やや役に立った	あまり役に立っていない	まったく役に立っていない	有意確率
A. 校外の自主的な勉強サークル	女性(96)	24.0%	51.0%	19.8%	5.2%	0.803
	男性(42)	23.8%	50.5%	16.7%	9.5%	
B. 法定研修(初任者研修・10年経験者研修)	女性(118)	11.0%	49.2%	28.0%	11.9%	0.859
	男性(49)	12.2%	46.9%	24.5%	16.3%	
C. 教育委員会主催の研修(法定研修を除く)	女性(115)	12.2%	47.0%	27.0%	13.9%	0.980
	男性(54)	13.0%	44.5%	29.6%	13.0%	
D. 大学や民間団体等による研修	女性(102)	21.6%	46.1%	24.5%	7.8%	0.857
	男性(42)	19.0%	47.6%	21.4%	11.9%	

(4)60歳時点でしていきたい仕事【Q4】

Q4では、60歳時点でしていきたい仕事について、「その他」を含む6種類から回答してもらっている。表4-2に示した通り、男女間に有意な差がみられた。

最も回答割合が高いのは男女とも「一般教員」であるが、女性では7割を超えるのに対し、男性では6割代半ばとやや開きがある。一方、「その他の主任」では男女とも1割を超えるが、男性の方がやや高く、「教育行政職」や「教務主任」は男女とも5%にも満たない。また、「管理職」と回答した女性は約9%で女性教員の全体平均より高いが、男性は全体平均の半分程度の10%となったため、男女差は小さくなっている。

表4-2 未就学児がいる男女別・「Q4 あなたは、60歳時点で、どのような仕事をしたいですか」

	女性	男性
N	158	67
管理職	8.9%	10.4%
教務主任	4.4%	3.0%
その他主任	10.1%	16.4%
一般教員	72.2%	65.7%
教育行政職員	1.9%	1.5%
その他	2.5%	3.0%
有意確率	0.808	

(5)管理職や行政職になりたくない理由【Q5】

Q5では、Q4で「教務主任」「その他主任」「一般教員」と回答した者に対し、管理職や行政職になりたくない理由を尋ねた。回答は、「その他」を含む10項目から該当するものすべてを選択してもらった(表5-2)。男女間に統計的有意差がみられたのは、「部活動に関わりたくない」「家事・介護があるから」の2項目で、「家事・介護」は女性の4割が回答し、男性の2.5倍にのぼった。

回答割合が高かった理由を上位から順にみると、男女とも最も高かったのは、「ずっと子どもと接していたいから」であるが、男性より女性の方が13ポイント高く、女性の3分の2となった。女性ではこれに「家事・介護」が続くが、男性では「責任が重すぎる」が続き、女性より6ポイントほど高い結果となった。男女とも3番目は「仕事に魅力を感じない」で、男女とも3割以上がこのように回答し、男性は女性より4ポイント高かった。また、4番目以降では、「授業を極めたい」では女性が男性より高いものの、「部活動に関わりたい」「広域異動させられる」「学校外での活動に関わりたい」については男性の方が高かった。

表5-2 未就学児がいる男女別・「Q5 管理職や行政職になりたくない理由は何ですか(複数回答)」

	女性	男性	有意確率
N	137	57	
ずっと子どもと接していたいから	65.7%	52.6%	0.088
責任が重すぎるから	32.1%	38.6%	0.386
仕事に魅力を感じないから	32.8%	36.8%	0.593
授業を極めたいから	20.4%	17.5%	0.644
部活動に関わりたいから	2.2%	8.8%	0.036
広域で異動させられるから	5.8%	7.0%	0.756
学校外での教育活動やNPO・サークルに関わりたいから	3.6%	7.0%	0.310
家事・介護があるから	40.1%	15.8%	0.001
十分に働いたから	7.3%	7.0%	0.945
その他	2.9%	5.3%	0.425

(6)同僚との関わり方【Q6】

Q6 では、同僚との関わり方として A～G の 7 項目を示し、それぞれについて 4 段階で回答を得た(表 6-1)。男女間に統計的有意差がみられたのは、「D. 困ったときに、同僚教師から援助してもらった」と「C. 同僚の授業を見たり同僚があなたの授業を見たりする」の 2 項目で、D. に対して「よくある」と回答した女性は男性の 2 倍近くであった。

「よくある」と「たまにある」を合わせてみると、どの項目も男性より女性の方が高かった。男

女ともっとも低い「A. 学校を離れてもインフォーマルにつきあう」においても、女性の方が高かった。

表6-2 未就学児がいる男女別・「Q6 あなたの同僚との関わり方に一番近いものを選んで下さい」

	性別(N)	よくある	たまにある	あまりない	まったくない	有意確率
A. 同僚と学校を離れてもインフォーマルにつきあう	女性(159)	15.1%	44.7%	22.6%	17.6%	0.273
	男性(67)	16.4%	35.8%	34.3%	13.4%	
B. 同僚と教育観や教育方針について語り合う	女性(159)	11.3%	54.7%	21.4%	12.6%	0.881
	男性(67)	11.9%	50.7%	20.9%	16.4%	
C. 同僚の授業を見たり同僚があなたの授業を見たりする	女性(159)	16.4%	56.0%	17.6%	10.1%	0.046
	男性(67)	16.4%	41.8%	34.3%	7.5%	
D. 困った時に、同僚の教師から援助してもらった	女性(159)	42.1%	45.3%	5.7%	6.9%	0.015
	男性(67)	20.9%	56.7%	11.9%	10.4%	
E. 困っている教師を支援した	女性(159)	22.6%	55.3%	12.6%	9.4%	0.956
	男性(67)	23.9%	52.2%	14.9%	9.0%	
F. 同僚教師に指導・助言した	女性(159)	12.6%	56.6%	21.4%	9.4%	0.995
	男性(67)	13.4%	55.2%	22.4%	9.0%	
G. 同僚と教材を協働で作成したり、交換をしたりする	女性(159)	30.8%	46.5%	13.8%	8.8%	0.055
	男性(67)	16.4%	50.7%	25.4%	7.5%	

(7)職場の雰囲気・状況【Q7】

Q7 では、職場の雰囲気・状況について、4 項目を尋ねている。未就学児のいる教員の男女別の結果は表 7-2 のとおりである。

「校長・校長・教頭と他の教職員との間で意思の疎通がうまく図られている」かどうかについては、男女ともに「とても+ややそう思う」の回答が 5 割台、「あまり+まったくそう思わない」が 4 割台で、回答は男女ともに肯定/否定がほぼ拮抗していた。

「校長・教頭が勝手にことがらを決めたり進めたりする」は、男女ともに「とても+ややそう思う」の回答が 5 割強であり、この項目も男女共に肯定/否定が拮抗していた。

「校長・教頭からの評価を気にして仕事をしている」では、男女ともおよそ 7 割弱が「あまり+全くそう思わない」と回答しており、管理職からの評価をあまり気にしないで仕事をしている様子がうかがえる。

「最終的な責任は管理職がとる」では、「とても+ややそう思う」が女性で 8 割強、男性では 7 割弱で女性の方が肯定率が高く、有意差が見られている。未就学児のいる教員では、女性の方が、最終的な責任を管理職にゆだねる比率が高いことが示された。

表7-2 未就学児がいる男女別・「Q7 あなたの職場の雰囲気・状況に一番近いものを選んで下さい」

	性別(N)	とてもそう 思う	ややそう 思う	あまりそう 思わない	まったく 思わない	有意確率
A. 校長・教頭と他の教職員との間で意思の疎通がうまく図られている	女性(159)	8.2%	49.7%	32.7%	9.4%	0.429
	男性(67)	11.9%	38.8%	35.8%	13.4%	
B. 校長・教頭が勝手にことがらを決めたり進めたりする	女性(159)	12.6%	39.6%	38.4%	9.4%	0.437
	男性(67)	19.4%	31.3%	41.8%	7.5%	
C. 校長・教頭からの評価を気にして仕事をしている	女性(159)	5.7%	28.9%	43.3%	22.0%	0.430
	男性(67)	7.5%	23.0%	37.3%	31.1%	
D. 最終的な責任は管理職がとる	女性(159)	25.8%	57.9%	12.6%	3.8%	0.042
	男性(67)	28.4%	40.3%	22.4%	9.0%	

(8)昨今の教育政策に関する勤務校での取り組み【Q8】

Q8 では、「子ども・保護者による学校評価・教員評価」、「保護者・地域住民の学校参加」、「人事・給与と連動した教員評価」、「『全国学力・学習状況調査』の結果にもとづく学力向上策」、「GIGA スクール構想」、「防災教育」、「ICT を用いた個別最適な学び」に向けた検討」の 7 つの取り組みの程度について尋ねている。男女別では表 8-2 のとおり、有意差は見られなかった。

「『全国学力・学習状況調査』の結果にもとづく学力向上策」を除き、男女とも半数以上が「かなり+やや取り組んでいる」と回答しており、とりわけ「子ども・保護者による学校評価・教員評価」は男女とも 8 割以上が「取り組んでいる」と回答している。

表8-2 未就学児がいる男女別・「Q8 あなたの勤務先で次の項目はどのくらい取り組まれていますか」

	性別(N)	かなり取り組んでいる	やや取り組んでいる	あまり取り組んでいない	まったく取り組んでいない	有意確率
A. 子ども・保護者による学校評価・教員評価	女性(159)	27.0%	56.0%	13.2%	3.8%	0.347
	男性(67)	16.4%	67.2%	13.4%	3.0%	
B. 保護者・地域住民の学校参加	女性(159)	13.8%	62.3%	29.5%	4.4%	0.411
	男性(67)	16.4%	50.7%	25.4%	7.5%	
C. 人事・給与と連動した教員評価	女性(159)	8.2%	52.2%	28.3%	11.3%	0.657
	男性(67)	9.0%	43.3%	32.8%	14.9%	
D. 「全国学力・学習状況調査」の結果に基づく学力向上策	女性(159)	7.5%	55.3%	27.0%	10.1%	0.125
	男性(67)	4.5%	43.3%	32.8%	19.4%	
E. GIGAスクール構想	女性(159)	13.2%	42.8%	34.6%	9.4%	0.200
	男性(67)	20.9%	49.3%	23.9%	6.0%	
F. 防災教育	女性(159)	14.5%	50.3%	28.3%	6.9%	0.200
	男性(67)	19.4%	59.7%	16.4%	4.5%	
G. ICTを用いた「個別最適な学び」に向けた検討	女性(159)	18.2%	51.6%	23.9%	6.3%	0.923
	男性(67)	14.9%	52.2%	26.9%	6.0%	

(9) 育児休業やハラスメント対策等に対する勤務校での取り組み【Q9】

Q9 では、回答者が勤める学校で A～J の各項目についてどの程度取り組んでいるか、を 4 段階で尋ねている。この質問は回答者の主観によるもので、事実としてではない点に注意する必要がある。質問内容は育児休業やハラスメント対策、ワーク・ライフ・バランスなどから、ジェンダーの視点を取り入れた教材開発などである。

表 9-2 に示す通り、1 項目で有意差があった。その質問は「C. (セクシュアル・マタニティ・パタニティ) ハラスメントの防止」である。女性では「あまり取り組んでいない」34.0%、「まったく取り組んでいない」8.2%であったが、男性では「あまり取り組んでいない」22.4%、「まったく取り組んでいない」20.9%だった。「あまり取り組んでいない」と「まったく取り組んでいない」を合わせた数値ではあまり差はないが、男性のほうがより「取り組んでいない」と感じていることになる。

表9-2 未就学児がいる男女別・「Q9 あなたの勤務先で次の項目はどのくらい取り組まれていますか」

	性別(N)	かなり取り組んでいる	やや取り組んでいる	あまり取り組んでいない	まったく取り組んでいない	有意確率
A. 男性の育児休業取得の推進	女性(159)	8.8%	18.9%	41.5%	30.8%	0.220
	男性(67)	6.0%	31.3%	37.3%	25.4%	
B. 育児休業からの復帰に向けての支援	女性(159)	8.2%	36.5%	37.7%	17.6%	0.954
	男性(67)	7.5%	38.8%	34.3%	19.4%	
C. (セクシュアル・マタニティ・パタニティ)ハラスメントの防止	女性(159)	10.7%	47.2%	34.0%	8.2%	0.029
	男性(67)	7.5%	49.3%	22.4%	20.9%	
D. ジェンダーの視点を取り入れた教材開発・授業開発	女性(159)	8.2%	38.4%	37.7%	15.7%	0.522
	男性(67)	13.4%	41.8%	32.8%	11.9%	
E. 積極的な研修への声かけや、受けられなかった研修の再申請のサポート	女性(159)	8.8%	35.8%	40.9%	14.5%	0.307
	男性(67)	3.0%	43.3%	35.8%	17.9%	
F. 有給休暇取得の促進	女性(159)	11.3%	39.6%	34.6%	14.5%	0.576
	男性(67)	9.0%	46.3%	26.9%	17.9%	
G. 介護と仕事の両立支援	女性(159)	8.8%	27.7%	42.8%	20.8%	0.220
	男性(67)	9.0%	40.3%	29.9%	20.9%	
H. ワーク・ライフ・バランスに関する研修	女性(159)	7.5%	26.4%	45.9%	20.1%	0.197
	男性(67)	4.5%	38.8%	34.3%	22.4%	
I. 管理職に向けた女性教員の育成	女性(159)	8.2%	24.5%	44.0%	23.3%	0.307
	男性(67)	7.5%	32.8%	31.1%	28.4%	
J. 宿泊を伴う研修への積極的な参加を促す	女性(159)	5.0%	20.1%	45.3%	29.6%	0.833
	男性(67)	7.5%	22.4%	40.3%	29.9%	

(10)回答者の取り組み【Q10】

Q10 では、回答者が A～D にどの程度、取り組んでいるかを 4 段階で尋ねている。

表 10-2 に示した通り、男女とも「取り組んでいない」が過半数となるものはない。取り組んでいると回答した回答者が最も多いのは、男性が「C. ICT 機器を用いた機器」、女性が D. 「観点別評価」である。どの取り組みも男性より女性の方が取り組んでいると回答した回答者の割合が高いが、統計的有意差はみられない。

表10-2 未就学児がいる男女別・「Q10 あなたは次のことにどのくらい取り組んでいますか」

	性別(N)	かなり取り組んでいる	やや取り組んでいる	あまり取り組んでいない	まったく取り組んでいない	有意確率
A. アクティブラーニング	女性(159)	14.5%	56.0%	24.5%	5.0%	0.321
	男性(67)	17.9%	43.3%	29.9%	9.0%	
B. 新型コロナウイルス感染症による休校時のオンライン授業	女性(159)	15.7%	41.5%	25.8%	17.0%	0.625
	男性(67)	22.4%	38.8%	20.9%	17.9%	
C. ICT機器を用いた授業	女性(159)	22.0%	54.7%	17.0%	6.3%	0.143
	男性(67)	34.3%	38.8%	19.4%	7.5%	
D. 観点別評価	女性(159)	20.1%	57.9%	17.0%	5.0%	0.206
	男性(67)	23.9%	43.3%	26.9%	6.0%	

(11)教職に対する回答者の考え【Q11】

Q11 では、A～Mに関する回答者の考えを4段階で回答してもらっている。表11-2に示した通り、「D. 教員は、子どもに接する喜びのある仕事だ」と「J. 教員は、『自分らしさ』を表現できる仕事だ」の回答において、男女間に有意な差がみられた。

「D. 教員は、子どもに接する喜びのある仕事だ」は、女性の方が男性よりも、「そう思う」と回答する傾向にあり、「あまりそう思わない」は女性 8.2%、男性 17.9%と男性の方が2倍以上回答している。

「J. 教員は、『自分らしさ』を表現できる仕事だ」は、「とてもそう思う」は女性の方が多く回答しているものの、「そう思う」や「とてもそう思う」と「そう思う」を足した割合(女性 62.3%、男性 65.6%)は男性の方が多く回答している。「そう思わない」は女性 5.0%に対し、男性 16.4%である。

表11-2 未就学児がいる男女別・「Q11 あなたの考えに一番近いものを選んで下さい」

	性別(N)	とてもそう 思う	ややそう思 う	あまりそう 思わない	まったくそ う思わない	有意確率
A. 教員は、社会的に 尊敬される仕事だ	女性(159)	7.5%	38.4%	39.6%	14.5%	0.816
	男性(67)	10.4%	38.8%	34.3%	16.4%	
B. 教員は、経済的に 恵まれた仕事だ	女性(159)	7.5%	45.3%	34.0%	13.2%	0.844
	男性(67)	7.5%	47.8%	35.8%	9.0%	
C. 教員は、精神的に 気苦労の多い仕事だ	女性(159)	65.4%	24.5%	5.7%	4.4%	0.521
	男性(67)	56.7%	32.8%	7.5%	3.0%	
D. 教員は、子どもに 接する喜びのある仕 事だ	女性(159)	47.8%	39.0%	8.2%	5.0%	0.026
	男性(67)	29.9%	49.3%	17.9%	3.0%	
E. 教員は、やりがい のある仕事だ	女性(159)	44.7%	42.8%	8.8%	3.8%	0.156
	男性(67)	34.3%	47.8%	7.5%	10.4%	
F. 教員は、自己犠牲 を強いられる仕事だ	女性(159)	40.9%	45.3%	9.4%	4.4%	0.566
	男性(67)	43.3%	41.8%	13.4%	1.5%	
G. 教員は、自分の考 えにそって自律的に やれる仕事だ	女性(159)	16.4%	43.3%	34.0%	6.3%	0.165
	男性(67)	10.4%	49.3%	26.9%	13.4%	
H. 教員は、高度の専 門的知識・技能が求 められる仕事だ	女性(159)	38.4%	46.5%	12.6%	2.5%	0.140
	男性(67)	25.4%	49.3%	19.4%	6.0%	
I. 教員は、高い倫理 観が強く求められる 仕事だ	女性(159)	42.8%	44.7%	7.5%	5.0%	0.345
	男性(67)	29.9%	55.2%	9.0%	6.0%	
J. 教員は、「自分らし さ」を表現できる仕 事だ	女性(159)	15.1%	47.2%	32.7%	5.0%	0.009
	男性(67)	11.9%	53.7%	17.9%	16.4%	
K. 教員は、はっきり とした成果を問われ る仕事だ	女性(159)	14.5%	39.0%	40.3%	6.3%	0.043
	男性(67)	11.9%	44.8%	26.9%	16.4%	
L. 教員は、割り当て た役割に専心する仕 事だ	女性(159)	12.6%	49.1%	31.4%	6.9%	0.631
	男性(67)	10.4%	41.8%	38.8%	9.0%	
M. 教員は、教師以外 の人々との関係づくり が欠かせない仕事だ	女性(159)	34.0%	47.8%	14.5%	3.8%	0.244
	男性(67)	22.4%	56.7%	13.4%	7.5%	

(12) 教職生活に関する現時点の考え【Q12】

Q12 では、教職生活にかかわる A～E の 5 項目について、現時点で、どのように考えているかを 4 段階で尋ねている。

表 12-2 に示すように、未就学児がいる男女別でクロス集計した結果、「C.毎日が忙しい」「E.やりがいがある」の 2 項目で統計的有意差が確認された。

「とても＋ややそう思う」の回答割合の合計が、5 項目すべてで男性より女性に高い結果であり、「教師を辞めたい」を除き、8 割前後にのぼる項目が 4 つある。「教師になってよかった」「慢性的に疲れを感じる」「毎日が忙しい」「やりがいがある」である。これら 4 項目は、女性の方が男性より 3～7 ポイント高い。なお、「教師を辞めたい」は、4 割前後であるものの、女性のほうが 7 ポイント高く回答している。

表12-2 未就学児がいる男女別・Q12 あなたは、現時点で次のことをどのように考えていますか

	性別(N)	とてもそう 思う	ややそう 思う	あまりそう 思わない	まったく 思わない	有意確率
A. 教師になってよかった	女性(159)	35.2%	44.7%	14.5%	5.7%	0.236
	男性(67)	34.3%	41.8%	10.4%	13.4%	
B. 慢性的に疲れを感じる	女性(159)	45.3%	39.6%	14.5%	0.6%	0.095
	男性(67)	44.8%	29.9%	20.9%	4.5%	
C. 毎日が忙しい	女性(159)	57.9%	33.3%	6.9%	1.9%	0.046
	男性(67)	37.3%	49.3%	10.4%	3.0%	
D. 教師を辞めたい	女性(159)	10.1%	32.7%	34.0%	23.3%	0.051
	男性(67)	17.9%	17.9%	44.8%	19.4%	
E. やりがいがある	女性(159)	35.8%	51.6%	9.4%	3.1%	0.012
	男性(67)	19.4%	56.7%	11.9%	11.9%	

(13) 負担を感じる職務【Q13】

Q13 では、負担に感じる職務について「その他」「負担を感じるものがない」を含む 10 項目から該当するものすべて選んでもらった(表 13-2)。未就学児がいる男女別でクロス集計した結果、表に示すように、10 項目中 2 項目「校務分掌」・「管理職への対応」で統計的有意差が確認された。

男女で回答割合が高かった理由を上位から順にみると、1 番目は男女とも「保護者への対応」で 6 割前後と高く、他を引き離している。2 番目から 6 番目までは、女性と男性で多少の入れ替えはあるものの、概ね「生徒指導」「校務分掌」「調査・報告書等の事務作業」「部活動」

「授業準備」「管理的業務」の順で、6 割から 3 割程度が負担を感じている職務と回答している。なお、有意差があった「校務分掌」・「管理職への対応」は、男性の方が女性より 15 ポイント近く高く、男女での負担感の違いが伺えた。

表13-2 未就学児がいる男女別・「Q13 あなたが負担に感じる項目をすべて選んで下さい」

	女性	男性	有意確率
N	159	67	
生徒指導	50.3%	43.3%	0.334
授業準備	34.0%	38.8%	0.487
校務分掌	46.5%	61.2%	0.044
部活動	40.3%	28.4%	0.09
保護者への対応	63.5%	58.2%	0.452
管理職への対応	15.7%	31.3%	0.008
管理的業務	4.4%	9.0%	0.179
調査・報告等の事務作業	41.5%	52.2%	0.138
その他	5.0%	0.0%	0.062
負担を感じるものがない	5.0%	1.5%	0.214

(14) 教師を辞めたいと思ったことがあるか【Q14】

先の Q12 では、現在、辞めたいと思っているかを尋ねているが、Q14 では、過去に教師を辞めたいと思ったことの有無を回答してもらった。

表 14-2 に示すように、未就学児がいる男女別でクロス集計した結果、統計的有意な差は確認されなかった。男女とも 6～7 割を超えて辞めたいと思ったことが「ある」と回答し、女性が 9 ポイント高い結果である。

表14-2 未就学児がいる男女別・「Q14 あなたは、過去に教師を辞めたいと思ったことがありますか」

	N	ある	ない	有意確率
女性	159	70.4%	29.6%	0.175
男性	67	61.2%	38.8%	

(15) 教師を辞めたいと思った理由【Q15】

Q15 では、Q14 で「ある」の回答者に、辞めたいと思った理由について、「その他」を含む 6 項目から該当するものすべてを選んでもらっている。

未就学児がいる男女別でクロスした結果、表 15-2 で示したように、「出産したから」と「職務上の理由」の 2 項目に統計的有意差が確認された。前者の「出産したから」は、数年内に自身が出産を経験していることとの関連が示唆されるが、女性の回答割合は 4 割を大きく超え、男性との差は 44 ポイントとなっている。一方 6 項目中辞めたいと思った理由最多の「職務上の理由」も、男性は 7 割強だが、女性は 4 割弱と男女で 36 ポイントの開きがある。残り 4 項目の「介護を抱えたから」「転職を考えたから」「自分自身の病気のため」「その他」は男女差は小さく、いずれも 2 割を下回る回答割合であった。

表15-2 未就学児がいる男女別・「Q15(Q14が「ある」の場合)それはなぜですか(複数回答)」

	N	出産したから	介護を抱えたから	転職を考えたから	職務上の理由	自分自身の病気のため	その他
女性	112	46.4%	1.8%	16.1%	39.3%	6.3%	17.9%
男性	41	2.4%	4.9%	19.5%	75.6%	14.6%	14.6%
有意確率		<0.001	0.288	0.616	<0.001	0.099	0.638

3. 回答者の状況(Q16～Q44)

本調査では、「あなたについてお尋ねします」として、回答者の置かれている状況について、Q16 から Q44 まで尋ねた。ミドルリーダー期の教員についての男女別クロス集計の結果をみていく。

(1)現在の勤務先都道府県【Q16】

Q16 では、現在の勤務先都道府県を尋ねている。表 16-2 は、記入された都道府県を「北海道東北」「関東」「中部」「近畿」「中国四国」「九州沖縄」地方の6つにカテゴライズしている。未就学児がいる男女別でクロス集計した結果、表にみるように、統計的に有意な差はない。突出した地方はなく、男女とも、最多は関東地方の3割前後で、中国四国地方が1割弱で最小であった。

表16-2 未就学児がいる男女別・「Q16 現在の勤務先都道府県はどこですか。」

	N	北海道東北 地方	関東地方	中部地方	近畿地方	中国四国地 方	九州沖縄地 方	有意確率
女性	159	11.3%	29.6%	23.9%	18.2%	7.5%	9.4%	0.791
男性	67	13.4%	31.3%	16.4%	23.9%	7.5%	7.5%	

(2)現在勤めている都道府県での勤務年数【Q17】

Q17 では、現在勤めている都道府県で何年目の勤務かを尋ね、回答があった年数(「10年以内」、「11年以上20年以内」、「21年以上30年以内」、「31年以上」)に4つにカテゴライズしている。

表 17-2 に示すように、未就学児がいる男女別でクロス集計をした結果、有意差が確認された。男女とも最多勤務年数は10年以内であり、女性は6割を大きく超え、男性も5割強と高いが、女性が男性を12ポイント上回っている。

表17-2 未就学児がいる男女別・「Q17 現在勤めている都道府県で何年目の勤務ですか」

	N	10年以内	11年以上 20年以内	21年以上 30年以内	31年以上	有意確率
女性	159	64.2%	32.7%	3.1%	0.0%	0.009
男性	67	52.2%	34.3%	9.0%	4.5%	

(3)これまでの教員歴【Q18】

Q18 では、これまでの教員歴(年数)について、臨時採用(非常勤)年数を尋ね、実年数で回答してもらった。「非常勤の期間はなし」、「1 年」、「2～5 年」、「6 年以上」の 4 つにカテゴライズしている。

表 18-2-1 に示すように、未就学児がいる男女別でのクロス集計の結果、統計的に有意な差はなかったが、男女ともに「非常勤の期間はなし」が最多で 6 割を超え、男性(6 割)より女性(7 割)に高く 10 ポイントの開きがある。一方、非常勤経験「1 年」「2～5 年」「6 年以上」はいずれも、女性より男性に 1～6 ポイント高い結果である。

表18-2-1 未就学児がいる男女別・「Q18これまでの教員歴(年数)をお答え下さい(臨時採用(非常勤))」

	N	非常勤の期 間はなし	1年	2～5年	6年以上	有意確率
女性	159	73.6%	11.3%	11.9%	3.1%	0.528
男性	67	64.2%	13.4%	17.9%	4.5%	

次に、これまでの教員歴(年数)について、臨時採用(常勤)年数を尋ね、実年数で回答してもらっている。表 18-2-2 は、「非常勤の期間はなし」、「1 年」、「2～5 年」、「6 年以上」の 4 つにカテゴライズしている。

表に示すように、未就学児がいる男女別でのクロス集計の結果、統計的に有意な差はなかった。「臨時採用歴(常勤)の期間はなし」の回答が男女とも 6 割前後で最も多く、男女に差はほとんどなかった。一方、臨時採用(常勤)「1 年」「2～5 年」「6 年以上」の経験年数は、1 年は、女性に高く、2～5 年は男性にそれぞれ 10 ポイントの差があった。6 年以上は、男性に高いものの、差は 3 ポイントと小さかった。

表18-2-2 未就学児がいる男女別・「Q18これまでの教員歴(年数)をお答え下さい(臨時採用(常勤))」

	N	臨時採用(常勤)の期間はなし	1年	2～5年	6年以上	有意確率
女性	159	60.4%	17.0%	19.5%	3.1%	0.129
男性	67	58.2%	7.5%	28.4%	6.0%	

次に、これまでの教員歴(年数)について、本採用(常勤)年数を尋ね、実年数で回答してもらっている。表 18-2-3 は、「本採用の期間はなし」、「1～10 年」、「11～20 年」、「21～30 年以」「30 年以上」の 5 つにカテゴライズしている。

表 18-2-3 に示すように、未就学児がいる男女別でのクロス集計の結果、統計的に有意な差が確認された。男女とも、本採用期間はなしは、1 割に満たない。本採用教員歴の最多年数は男女とも 6 割弱が「1～10 年」と回答しており、男性より女性に高く 4 ポイントの差があった。次いで 11 年～20 年も男性より女性に高く、4 ポイントの差があったことより、未就学児がいる男女は、教員歴 20 年以内が 8 割から 9 割を超えていることがわかる。

表18-2-3 未就学児がいる男女別・「Q18これまでの教員歴(年数)をお答え下さい(本採用)」

	N	本採用の期間はなし	1～10年	11～20年	21～30年	31年以上	有意確率
女性	159	6.3%	57.9%	32.7%	3.1%	0.0%	0.049
男性	67	6.0%	53.7%	28.4%	7.5%	4.5%	

(4)正規採用までに何回採用試験を受けたか【Q19】

Q19 では、正規の採用までに、何回、採用試験を受けたかを、0 から 100 までの実数で回答してもらっている。分析では、回答の度数分布の状況をもとに回答を 4 つにカテゴライズしている。表 19-2 に示すように、未就学児がいる男女別でのクロス集計の結果、統計的に有意な差が確認された。正規の採用までに受けた採用試験の回数は、女性の半数以上が 1 回であり、2 回以上は 2 割以下と少ない。一方男性は、1 回と 3～5 回にそれぞれ 3 割強となっており、男女で違いがある。

表19-2 未就学児がいる男女別・「Q19あなたは、正規の採用までに、何回、採用試験を受けましたか」

	N	1回	2回	3～5回	6回以上	有意確率
女性	149	55.7%	19.5%	20.1%	4.7%	0.017
男性	63	33.3%	23.8%	31.7%	11.1%	

(5)教員以外のキャリアはあるか【Q20】

Q20 では、教員以外のキャリア経験の有無について尋ねている。表 20-2 に示すように、未就学児がいる男女別クロス集計の結果、統計劇に有意な差が確認された。教員以外のキャリア経験については、男女とも 6～7 割を超えて「ない」と回答し、女性が 13 ポイント高い結果である。

表20-2 未就学児がいる男女別・「Q20教員以外のキャリアの経験はありますか」

	N	ある	ない	有意確率
女性	159	22.6%	77.4%	0.040
男性	67	35.8%	64.2%	

(6)教職を一度退職して再度教職に就いたことはあるか【Q21】

Q21 では、教職を一度退職して再度教職に就いたことがあるかどうかを尋ねている。表 21-2 に示すように、教職を一度退職して、その後、再度教職に就いた経験が「ない」ものは、男女とも 9 割前後にのぼる。男女における統計的な有意差はみられない。

表21-2 未就学児がいる男女別・「Q21教職を一度退職して、その後、再度教職に就いた経験はありますか」

	N	ある	ない	有意確率
女性	159	10.1%	89.9%	0.798
男性	67	9.0%	91.0%	

(7)他都道府県で就職、退職し、他都道府県に就職した経験【Q22】

Q22 では、他都道府県で就職し、退職後、他都道府県に就職した経験を尋ねている。表 22-2 に示すように、他都道府県で就職し、退職して、他都道府県に就職した経験が「ない」ものは、男女とも 8 割以上にのぼる。男女における統計的な有意差はみられない。

表22-2 未就学児がいる男女別・「Q22他都道府県で就職し、退職して、他都道府県に就職した経験はありますか」

	N	ある	ない	有意確率
女性	159	14.5%	85.5%	0.708
男性	67	16.4%	83.6%	

(8)現在の勤務先での採用形態【Q23】

Q23 では、現在の勤務先での採用形態を尋ねている。調査では、本採用、臨時採用・常勤、臨時採用・非常勤、その他の 4 つで尋ねている。未就学児を持つ教員について男女別クロス集計を行った結果、表 23-2 に示すように有意差がみられた。全般的には「本採用」である割合が男女ともに最も高いものの、男性の方が有意にその傾向がある。

表23-2 未就学児がいる男女別・「Q23現在の勤務先での採用形態をお答え下さい」

	N	本採用	臨時採用・常勤	臨時採用・非常勤	有意確率
女性	157	88.5%	1.9%	9.6%	0.020
男性	67	95.5%	4.5%	0.0%	

(9)勤務校の設置形態【Q24】

Q24 では、勤務校の設置形態について、国立・公立・私立の 3 つで尋ねている。表 24-2 のように、9 割前後の教員が「公立」学校の教員である。

表24-2 未就学児がいる男女別・「Q24勤務校の設置形態をお答え下さい」

	N	国立	公立	私立	有意確率
女性	159	5.7%	89.3%	5.0%	0.371
男性	67	1.5%	92.5%	6.0%	

(10)現在の職名【Q25】

Q25 では現職名を尋ねている。男女間に顕著な統計的有意差があり、女性では8割以上が一般教諭で、これに臨採が続くが、教頭以上の管理職は0%であった。一方、男性では一般教諭が7割で、これに主任級が続き、教頭以上の管理職に就いているのは6%であった。

表25-2 未就学児がいる男女別・「Q25あなたの現在の職名をお答え下さい」

	N	校長・副校長・教頭	主幹教諭・指導教諭・主任・首席教諭など	教諭	臨時採用・臨時講師	その他	有意確率
女性	159	0.0%	6.9%	84.3%	8.2%	0.6%	0.001
男性	67	6.0%	17.9%	71.6%	3.0%	1.5%	

(11)現在学級担任をしているか【Q26】

Q26 では学級担任の有無を尋ねているが、こちらも男女間に有意差が見られた。担任をしている男性は7割近い一方、女性では5割強にとどまった。

表26-2 未就学児がいる男女別・「Q26あなたは現在学級担任をしていますか」

	N	している	していない	有意確率
女性	159	51.6%	48.4%	0.018
男性	67	68.7%	31.3%	

(12)現在部活動の顧問をしているか【Q27】

Q27 では、現在部活動の顧問をしているかどうかを尋ねている。表27-2に示すように、未就学児のいる教員では男女差は見られなかったが、部活動の顧問をしている女性は4割未満と男性より8ポイントほど少ない。

表27-2 未就学児がいる男女別・「Q27あなたは現在部活動の顧問をしていますか」

	N	している	していない	有意確率
女性	159	36.5%	63.5%	0.243
男性	67	44.8%	55.2%	

(13)現在教職大学院に在学しているか【Q28】

Q28 では、現在教職大学院に在学しているかを尋ねている。表 28-2 に示すように、未就学児のいる教員は男女ともにほとんどが教職大学院には在学していない。統計的な有意差はみられなかったが、同じ立場にありながら「教職大学院に在学している」男性は女性の2倍以上であることには注目すべきであろう。

表28-2 未就学児がいる男女別・「Q28あなたは現在教職大学院に在学していますか」

	N	している	していない	有意確率
女性	159	1.9%	98.1%	0.269
男性	67	4.5%	95.5%	

(14)担当教科(中・高のみ)【Q29】

Q29 では、中学校・高等学校の教員を対象に、担当教科を複数回答で尋ねている。表 29-2 の通り、「社会・地理歴史・公民」と「英語(外国語)」で有意差があった。

「社会・地理歴史・公民」では、女性 9.1%なのに対し男性 24.1%で、男性では最も人数が多い教科だった。

「英語(外国語)」では、女性 32.5%なのに対し男性 6.9%で、女性では最も人数が多い教科だった。

表29-2 未就学児がいる男女別・「Q29中・高の先生方にお尋ねします。担当教科をお答え下さい(複数回答)」

	女性	男性	有意確率
N	77	29	
国語	14.3%	6.9%	0.301
社会・地理歴史・公民	9.1%	24.1%	0.041
数学	9.1%	20.7%	0.105
理科	7.8%	20.7%	0.062
音楽	7.8%	0.0%	0.122
美術・芸術	-	-	-
保健体育	9.1%	6.9%	0.718
家庭科・技術家庭科	7.8%	10.3%	0.674
英語(外国語)	32.5%	6.9%	0.007
情報	1.3%	6.9%	0.121
総合的な学習(探究)の時間	5.2%	13.8%	0.135
特別の教科道徳	2.6%	3.4%	0.814
専門学科の教科(商業・工業・農業・水産など)	3.9%	3.4%	0.914
その他	3.9%	3.4%	0.914

(15)担当教科のネットワークについて【Q30】

Q30 では、校種を問わず担当教科の学内外のネットワークの有無について尋ねている。

表 30-2 の通り、有意差はなかった。

表30-2 未就学児がいる男女別・「Q30 担当教科の学校内外のネットワークはありますか」

	N	ある	ない	有意確率
女性	123	58.5%	41.5%	
男性	59	57.6%	42.4%	

(16)これまでの異動経験回数【Q31】

Q31 では、回答者がこれまでの異動の回数を入力している。表 31-2 に示した通り、「一度もない」「1 回」は、女性の方が回答する傾向にあり、「2～5 回」「6 回以上」は、男性の方が回答する傾向にあるが、統計的有意差はみられない。

表31-2 未就学児がいる男女別・「Q31これまで、異動は何回経験しましたか」

	N	一度もない	1回	2～5回	6回以上	有意確率
女性	159	24.5%	28.9%	42.8%	3.8%	0.383
男性	67	16.4%	25.4%	52.2%	6.0%	

(17)これまでの転居を伴う異動経験回数【Q32】

Q32 では、回答者がこれまでの転居を伴う異動の回数を入力している。表 32-2 に示した通り、「一度もない」は、女性の方が回答する傾向にあり、「1 回」「2～5 回」「6 回以上」は、男性の方が回答する傾向にあるが、統計的有意差はみられない。

表32-2 未就学児がいる男女別・「Q32これまで、転居を伴う異動は何回経験しましたか」

	N	一度もない	1回	2回	3回以上	有意確率
女性	159	62.3%	20.1%	9.4%	8.2%	0.340
男性	67	52.2%	26.9%	14.9%	6.0%	

(18)現在担っている主任または主事の仕事【Q33】

Q33 では、「あなたが現在担っている主任または主事の役割はあるか」を尋ねている。回答は、「担っていない」を含む 7 項目から該当するものすべてを選択してもらった(表 33-2)。

全般的に、「保健主事」を除き、女性より男性の方が主任の割合が高い。

男女とも「主任や主事を担っていない」が最も多く、女性は約 7 割、男性は約 5 割であった。男女で 20 ポイント差が見られる。これに男性では「学年主任」、「生徒指導主事」が、女性では「学年主任」、「生徒指導主事」が続く。

表33-2 未就学児がいる男女別・「Q33あなたが現在担っている主任または主事の役割はありますか(当てはまるものすべて)」

	N	教務主任	学年主任	保健主事	生徒指導主事	進路指導主事	その他の主任・主事の役割	担っていない
女性	145	1.4%	9.0%	3.4%	6.2%	3.4%	5.5%	74.5%
男性	60	8.3%	18.3%	1.7%	10.0%	5.0%	6.7%	55.0%
有意確率		0.013	0.058	0.491	0.343	0.602	0.750	0.006

(19)平均的な1日の在職時間【Q34】

Q34 では、平均的な1日の在職時間を「8 時間未満」から「14 時間以上」までの 5 段階から回答してもらった(表 34-2)。

最も回答割合が高いのは男女とも「8 時間以上 10 時間未満」で、約 4 割であった。「8 時間以上から 12 時間未満」では、男性では約 8 割、女性では約 6 割強であり、13 ポイント差が見られた。さらに、「12 時間以上」は男女とも 1 割強であった。一方、「8 時間未満」は、女性の 5 分の 1 が回答し、男性と 13 ポイントの差があった。

表34-2 未就学児がいる男女別・「Q34あなたの平均的な1日の在職時間は何時間ですか」

	N	8時間未満	8時間以上 10時間未満	10時間以上 12時間未満	12時間以上 14時間未満	14時間以上	有意確率
女性	159	20.8%	40.3%	27.0%	9.4%	2.5%	0.078
男性	67	7.5%	49.3%	31.3%	6.0%	6.0%	

(20)通勤時間【Q35】

Q35 では、「通勤時間はどのくらいか」を「30 分未満」から「1 時間 30 分以上」の 4 段階から回答してもらっている(表 35-2)。最も回答割合が高いのは「30 分未満」で、男女とも約 4 割であった。「1 時間未満」は女性では 8 割を超えている。男女で大きな差がみられたのは「30 分以上 1 時間未満」で、女性が 14 ポイント高かった。

表35-2 未就学児がいる男女別・「Q35あなたの通勤時間はどのくらいですか」

	N	30分未満	30分以上1時間未満	1時間以上1時間30分未満	1時間30分以上	有意確率
女性	159	41.5%	40.9%	16.4%	1.3%	0.047
男性	67	43.3%	26.9%	23.9%	6.0%	

(21)配偶者の有無【Q36】

Q36 では、「配偶者(事実婚を含む)がいるか」の回答を得た。表 36-2 に示すように、男女とも 9 割強が「配偶者(事実婚を含む)がいる」と回答している。

表36-2 未就学児がいる男女別・「Q36あなたは配偶者がいますか(事実婚を含む)」

	N	いる	いない	有意確率
女性	159	97.5%	2.5%	0.633
男性	67	98.5%	1.5%	

(22)配偶者の職種および就労形態【Q37】

Q37 では、「配偶者(事実婚を含む)がいる」場合、「配偶者の職種、就労状況および就労形態」を尋ねた。表 37-2 に示すように、男女とも「配偶者が教員ではない」割合が多く、男性では約 6 割が、女性では約 5 割であった。

表37-2 未就学児がいる男女別・「Q37(Q36で「いる」場合)
配偶者の職種、就労状況および就労形態」

	N	教員	教員ではない	有意確率
女性	155	43.9%	56.1%	0.212
男性	66	34.8%	65.2%	

(23)配偶者が教員の場合、本務教員か否か【Q38】

Q38 では、「配偶者の職種が教員」の場合、「本務教員」か「臨時採用・臨時講師等の兼務教員」かの回答を得た。表 38-2 に示すように、男女とも「本務教員」と 9 割近く回答し、女性

の方が 8 ポイント高い。

表38-2 未就学児がいる男女別・「Q38(Q37で「教員」の場合)
次のどちらに当てはまりますか」

	N	本務教員	臨時採用・臨時講師等の 兼務教員	有意確率
女性	68	95.6%	4.4%	0.149
男性	23	87.0%	13.0%	

(24)配偶者が教員でない場合の就労形態等【Q39】

Q39 では、「配偶者の職種が教員ではない」場合、「就労状況および就労形態」を尋ねた。

表 39-2 に示すように、男性の約 4 割が「無職」と回答、これに「非正規雇用者」が 3 割と続き、女性と 27 ポイントの差が見られた。一方、女性の 9 割が「正規雇用者」と回答し、男性と 73 ポイントの大きな差が見られる。

表39-2 未就学児がいる男女別・「Q39(Q37が「教員ではない」の場合)当てはまるものを選んで下さい」

	N	無職	正規雇用者	非正規雇用者	その他	有意確率
女性	87	0.0%	92.0%	2.3%	5.7%	<0.001
男性	43	44.2%	18.6%	30.2%	7.0%	

(25)家事・育児・介護等の役割をどの程度担っているか【Q40】

Q40 では「現在、家事・育児・介護等、家庭の役割をどの程度になっているか」(家庭で必要な労力を 100%として)を回答してもらった(表 40-2)。

最も回答が多かったのは、女性では、「半分以上はあなたがしている(60～80%程度)」が 4 割と最も多く、「ほとんどあなたがしている(90～100%程度)」を合わせると約 8 割となった。一方男性では「半分以下だがあなたもしている(20～40%程度)」が 5 割強と最も回答が多かった。さらに「ほとんどしていない(0～10%程度)」を合わせると約 7 割を超える。

「半分以下だがあなたもしている(20～40%程度)」が、男女で 56 ポイントの大きな差が

みられた。

表40-2 未就学児がいる男女別・「Q40あなたは現在、家事・育児・介護等、あなたのご家庭の役割をどの程度
になっていますか(家庭に必要な労力を100%として)」

	N	ほとんどあ なたがしてい る(90～ 100%程度)	半分以上はあ なたがしてい る(60～ 80%程度)	ほぼ半分あ なたがしてい る(50%程 度)	半分以下だが あなたもして いる(20～ 40%程度)	あなたはほと んどしていな い(0～10% 程度)	有意確率
女性	159	34.0%	45.3%	18.2%	0.6%	1.9%	<0.001
男性	67	1.5%	4.5%	20.9%	56.7%	16.4%	

(26)子どもの人数【Q42】

Q42 では「子どもがいる」場合、子どもの人数を実数で回答してもらった。表 41-2 に示すように、最も回答が多かったのは、女性は「一人」で 5 割、男性では「一人」と「二人」が約 4 割であった。

表41-2 未就学児がいる男女別・「Q42(Q41で「いる」場合)お子さんの数は
何人ですか」

	N	一人	二人	三人以上	有意確率
女性	159	50.3%	35.8%	13.8%	0.503
男性	67	41.8%	41.8%	16.4%	

(27)現在、家族の介護をしているか【Q44】

Q44 では、「現在、家族の介護(同居・別居どちらでも)をしているか」を回答してもらった。表 42-2 に示すように、「現在、家族の介護(同居・別居どちらでも)をしていない」が男女とも 9 割以上であった。

表42-2 未就学児がいる男女別・「Q44現在、ご家族の介護
(同居・別居どちらでも)をしていますか」

	N	している	していない	有意確率
女性	159	6.9%	93.1%	0.596
男性	67	9.0%	91.0%	

資料編

1. 調査票

教員のキャリア形成に関するアンケート

ご協力をお願い

この調査は、昨今の教育改革が、教員のキャリア形成に与える影響を捉えるため、教員の教育活動や日常を把握するものです。本調査で得られたデータはすべて本研究にのみ使用され、本研究組織以外の者に提供されることはありません。また、皆様のプライバシーには十分配慮いたします。調査で得たデータに基づく研究成果を公表する際も、個人が特定されるようなことはありません。調査へのご協力を、よろしくお願い申し上げます。

2022 年 2 月

教員のキャリア形成に関する研究会

問い合わせ先：木村育恵（北海道教育大学 教授）

本調査は、文部科学省科学研究費基金基盤研究(B)(JSPS21H00829)を受けて実施しています。

■ スクリーニング項目、必須項目

SC1 あなたの職業をお答え下さい。(養護教諭、栄養教諭はここで調査終了)

【入力必須項目】あなたの年齢をお答え下さい。

SC2 現在お勤めの学校種を回答して下さい。

1. 小学校 2. 中学校 3. 高等学校 4. 特別支援学校 5. その他()

SC3 あなたの自認する性別を回答して下さい。

1. 女性 2. 男性 3. その他()

SC4 あなたの教員免許状は次のどれですか。1 種と 2 種などのように複数所持の場合は、現在の職種に合った免許を選んで下さい。

1. 普通免許状(専修免許状) 2. 普通免許状(1 種免許状) 3. 普通免許状(2 種免許状) 4. 特別免許状 5. 臨時免許状 6. 当てはまるものがない

SC5 あなたの最終学歴は次のどれに当てはまりますか。

1. 4 年制大学卒 2. 大学院修士課程修 3. 教職大学院修 4. 短期大学卒 5. その他()

■ あなたの仕事や職場環境についてお尋ねします。

1. あなたは、1 年間に本(教育雑誌を含む)を何冊読んでいますか。

1. 本を読むことはほとんどない 2. 年に 1～5 冊 3. 年に 6～10 冊 4. 年に 11～20 冊 5. 年に 21～30 冊 6. 年に 31～40 冊 7. 年に 41～50 冊 8. 51 冊以上

2. 今年度(2021 年度)4月以降、あなたは、次の研修会に何回くらい参加しましたか。回数を書いて下さい。参加されていない場合は0をご記入下さい。

※0～100 の半角数字でご記入下さい。

- A. 校内研修……()回
- B. 研究授業……()回
- C. 校内の自主的な勉強サークル…()回
- D. 校外の自主的な勉強サークル……()回
- E. 教育委員会主催の研修(法定研修を除く)……()回
- F. 大学や民間団体等による研修……()回

3. これまでの教員経験全体を振り返って、研修はどの程度役に立ちましたか。

- A. 校外の自主的な勉強サークル
- B. 法定研修(初任者研修・10 年経験者研修)
- C. 教育委員会主催の研修(法定研修を除く)
- D. 大学や民間団体等による研修

1. とても役に立った 2. やや役に立った 3. あまり役に立っていない 4. まったく役に立っていない 5. 参加していない

4. あなたは、60 歳時点で、どのような仕事をしたいですか。(当てはまるものひとつ)

1. 管理職 2. 教務主任 3. その他主任 4. 一般教員 5. 教育行政職員 6. その他()

5. 前問(4)で「2.教務主任」「3.その他主任」「4.一般教員」と回答した方にお尋ねします。あなたが管理職や行政職になりたいくない理由は何ですか。すべて選んで下さい。

1. ずっと子どもと接していたいから 2. 責任が重すぎるから 3. 仕事に魅力を感じないから 4. 授業を極めたいから 5. 部活動に関わりたいたいから 6. 広域で異動させられるから 7. 学校外での教育活動や NPO・サークルに関わりたいたいから 8. 家事・介護があるから 9. 十分に働いたから 10. その他()

6. あなたの同僚との関わり方に一番近いものを選んで下さい。

- A. 同僚と学校を離れてもインフォーマルにつきあう
- B. 同僚と教育観や教育方針について語り合う
- C. 同僚の授業を見たり同僚があなたの授業を見たりする
- D. 困った時に、同僚の教師から援助してもらった
- E. 困っている教師を支援した
- F. 同僚教師に指導・助言した

G. 同僚と教材を協働で作成したり、交換をしたりする

1. よくある 2. たまにある 3. あまりない 4. まったくない

7. あなたの職場の雰囲気・状況に一番近いものを選んで下さい。

- A. 校長・教頭と他の教職員との間で意思の疎通がうまく図られている
- B. 校長・教頭が勝手にことがらを決めたり進めたりする
- C. 校長・教頭からの評価を気にして仕事をしている
- D. 最終的な責任は管理職がとる

1. とてもそう思う 2. ややそう思う 3. あまりそう思わない 4. まったくそう思わない

8. あなたの勤務校で次の項目はどのくらい取り組まれていますか。

- A. 子ども・保護者による学校評価・教員評価
- B. 保護者・地域住民の学校参加
- C. 人事・給与と連動した教員評価
- D. 「全国学力・学習状況調査」の結果にもとづく学力向上策
- E. GIGA スクール構想
- F. 防災教育
- G. ICT を用いた「個別最適な学び」に向けた検討

1. かなり取り組んでいる 2. やや取り組んでいる 3. あまり取り組んでいない 4. まったく取り組んでいない

9. あなたの勤務校で次の項目はどのくらい取り組まれていますか。

- A. 男性の育児休業取得の推進
- B. 育児休業からの復帰に向けての支援
- C. (セクシュアル・マタニティ・パタニティ)ハラスメントの防止
- D. ジェンダーの視点を取り入れた教材開発・授業開発
- E. 積極的な研修への声かけや、受けられなかった研修の再申請のサポート
- F. 有給休暇取得の促進
- G. 介護と仕事の両立支援
- H. ワーク・ライフ・バランスに関する研修
- I. 管理職に向けた女性教員の育成
- J. 宿泊を伴う研修への女性の積極的な参加を促す

1. かなり取り組んでいる 2. やや取り組んでいる 3. あまり取り組んでいない 4. まったく取り組んでいない

10. あなたは次のことにどれくらい取り組んでいますか。

- A. アクティブラーニング
- B. 新型コロナウイルス感染症による休校時のオンライン授業

- C. ICT 機器を用いた授業
- D. 観点別評価

1. かなり取り組んでいる 2. やや取り組んでいる 3. あまり取り組んでいない 4. まったく取り組んでいない

11. あなたの考えに一番近いものを選んで下さい。

- A. 教員は、社会的に尊敬される仕事だ
- B. 教員は、経済的に恵まれた仕事だ
- C. 教員は、精神的に気苦労の多い仕事だ
- D. 教員は、子どもに接する喜びのある仕事だ
- E. 教員は、やりがいのある仕事だ
- F. 教員は、自己犠牲を強いられる仕事だ
- G. 教員は、自分の考えにそって自律的にやれる仕事だ
- H. 教員は、高度の専門的知識・技能が求められる仕事だ
- I. 教員は、高い倫理観が強く求められる仕事だ
- J. 教員は、「自分らしさ」を表現できる仕事だ
- K. 教員は、はっきりとした成果を問われる仕事だ
- L. 教員は、割り当てられた役割に専心する仕事だ
- M. 教員は、教師以外の人々との関係づくりが欠かせない仕事だ

1. とてもそう思う 2. ややそう思う 3. あまりそう思わない 4. まったくそう思わない

12. あなたは、現時点で次のことをどのように考えていますか。

- A. 教師になってよかった
- B. 慢性的に疲れを感じる
- C. 毎日が忙しい
- D. 教師をやめたい
- E. やりがいがある

1. とてもそう思う 2. ややそう思う 3. あまりそう思わない 4. まったくそう思わない

13. あなたが負担を感じる項目をすべて選んで下さい。

- 1. 生徒指導 2. 授業準備 3. 校務分掌 4. 部活動 5. 保護者への対応 6. 管理職への対応 7. 管理的業務 8. 調査・報告等の事務作業 9. その他() 10. 負担を感じるものがない

14. あなたは、過去に教師を辞めたいと思ったことがありますか。

- 1. ある 2. ない

15. 前問(14)で「1. ある」と回答した方にお尋ねします。それはなぜですか。

1. 出産したから 2. 介護を抱えたから 3. 転職を考えたから 4. 職務上の理由 5. 自分自身の病気のため 6. その他()

■ あなたについてお尋ねします。

16. 現在の勤務先都道府県はどこですか。
(プルダウン式で選択)
17. 現在、勤めている都道府県で何年目の勤務ですか。数字をご入力下さい。
※0～100の半角数字でご記入下さい。
()年目
18. これまでの教員歴(年数)をお答え下さい。回答する時には、〇ヵ月は切り上げて下さい(例:1ヶ月→1年)。ない方は0でお答え下さい。※(現在の採用形態を含む)
※0～100の半角数字でご記入下さい。
臨時採用(非常勤)として()年
臨時採用(常勤)として()年
本採用として()年
19. あなたは、正規の採用までに、何回、採用試験を受けましたか。回数をご入力下さい。
※0～100の半角数字でご記入下さい。
()回
20. 教職以外のキャリアの経験はありますか。
1. ある 2. ない
21. 教職を一度退職して、その後、再度教職に就いた経験はありますか。
1. ある 2. ない
22. 他都道府県で就職し、退職して、他都道府県に就職した経験はありますか。
1. ある 2. ない
23. 現在の勤務先での採用形態をお答え下さい。
1. 本採用 2. 臨時採用・常勤 3. 臨時採用・非常勤 4. その他()
24. 勤務校の設置形態をお答え下さい。
1. 国立 2. 公立 3. 私立
25. あなたの現在の職名をお答え下さい。
1. 校長・副校長・教頭 2. 主幹教諭・指導教諭・主任・首席教諭など 3. 教諭
4. 臨時採用・臨時講師 5. その他()

26. あなたは現在学級担任をしていますか。
1. している 2. していない
27. あなたは現在部活動の顧問をしていますか。
1. している 2. していない
28. あなたは現在教職大学院に在学していますか。
1. している 2. していない
29. 中・高(中等教育学校を含む)の先生にお尋ねします。担当教科をお答え下さい。(当てはまるものすべて)
1. 国語 2. 社会・地理歴史・公民 3. 数学 4. 理科 5. 音楽 6. 美術・芸術 7. 保健体育 8. 家庭科・技術家庭科 9. 英語(外国語) 10. 情報 11. 総合的な学習(探究)の時間 12. 特別の教科道徳 13. 専門学科の教科(商業・工業・農業・水産など) 14. その他()
30. 担当教科の学校内外のネットワークはありますか。
1. ある 2. ない 3. 該当しない
31. これまで、異動は何回経験しましたか。回数をご入力ください。
※0～100 の半角数字でご記入下さい。
()回
32. これまで転居を伴う異動は何回経験しましたか。回数をご入力ください。
※0～100 の半角数字でご記入下さい。
()回
33. あなたが現在担っている主任または主事の役割はありますか。当てはまるものをすべて選んで下さい。担っていない場合には、「担っていない」を選んで下さい。
1. 教務主任 2. 学年主任 3. 保健主事 4. 生徒指導主事 5. 進路指導主事 6. その他の主任・主事の役割(具体的に:) 7. 担っていない
34. あなたの平均的な1日の在職時間は何時間ですか。
1. 8時間未満 2. 8時間以上 10 時間未満 3. 10 時間以上 12 時間未満 4. 12 時間以上 14 時間未満 5. 14 時間以上 16 時間未満 6. 16 時間以上
35. あなたの通勤時間はどのくらいですか。
1. 30 分未満 2. 30 分以上 1 時間未満 3. 1 時間以上 1 時間 30 分未満
4. 1 時間 30 分以上 2 時間未満 5. 2 時間以上

36. あなたは配偶者がいますか(事実婚を含む)。
1. いる 2. いない
37. 前問(36)で「1. いる」を選択した場合、配偶者の職種、就労状況および就労形態について、次のうち、当てはまるものを選んで下さい。
1. 教員 2. 教員ではない
38. 前問(37)が「1. 教員」の場合、次のどちらに当てはまりますか。
1. 本務教員(校種: 、職名:)
2. 臨時採用・臨時講師等の兼務教員(校種:)
39. 前問(37)が「2. 教員ではない」の場合、当てはまるものを選んで下さい。
1. 無職 2. 正規雇用者 3. 非正規雇用者 4. 自営・家族従業・自由業 5. その他
40. あなたは現在、家事・育児・介護等、あなたのご家庭の役割をどの程度担っていますか。(家庭で必要な総労力を 100%として)次のうち、当てはまるものを 1 つだけ選んで下さい。
1. ほとんどあなたがしている(90~100%程度) 2. 半分以上はあなたがしている(60~80%程度) 3. ほぼ半分あなたがしている(50%程度) 4. 半分以下だがあなたもしている(20~40%程度) 5. あなたはほとんどしていない(0~10%程度)
41. あなたにはお子さんはいますか。
1. いる 2. いない
42. 前問(41)で「1. いる」の場合、お子さんの数は何人ですか。
※0~100 の半角数字でご記入下さい。
()人
43. 前問(41)で「1. いる」の場合、小学生未満のお子さんはいますか。
1. いる 2. いない
44. 現在、ご家族の介護(同居・別居どちらでも)をしていますか。
1. している 2. していない
45. 教員のキャリア形成についてご意見があれば自由にお書き下さい。(自由回答欄)

2. 基礎集計表

回答必須項目	あなたの年齢をお答え下さい。		平均	標準偏差	最小値	最大値	中央値	有効ケース	
	(全体)		45.67	12.41	20	82	46	1112	
	(ミドルリーダー期)		39.96	6.42	20	82	40	220	
	(未就学児がいる場合)		35.56	6.21	20	60	35	226	
			全体N (1112)	%	ミドルリーダー期N (220)	%	未就学児がいる場合N (226)	%	
SC2	現在お勤めの学校種を回答して下さい。	1 小学校	283	25.4	68	30.9	64	28.3	
		2 中学校	289	26.0	48	21.8	59	26.1	
		3 高等学校	278	25.0	46	20.9	47	20.8	
		4 特別支援学校	262	23.6	58	26.4	56	24.8	
		5 その他	0	0.0	0	0.0	0	0.0	
SC3	あなたの自認する性別を回答して下さい。	1 女性	563	50.6	133	60.5	159	70.4	
		2 男性	549	49.4	87	39.5	67	29.6	
		3 その他	0	0.0	0	0.0	0	0.0	
SC4	あなたの教員免許状は次のどれですか。1種と2種などのように複数所持の場合は、現在の職種に合った免許を選んで下さい。	1 普通免許状(専修免許状)	165	14.8	26	11.8	29	12.8	
		2 普通免許状(1種免許状)	781	70.2	179	81.4	168	74.3	
		3 普通免許状(2種免許状)	99	8.9	13	5.9	19	8.4	
		4 特別免許状	21	1.9	2	0.9	6	2.7	
		5 臨時免許状	10	0.9	0	0.0	1	0.4	
		6 当てはまるものがない	36	3.2	0	0.0	3	1.3	
SC5	あなたの最終学歴は次のどれに当てはまりますか。	1 4年制大学卒	914	82.2	192	87.3	194	85.8	
		2 大学院修士課程修了	125	11.2	24	10.9	20	8.8	
		3 教職大学院修了	22	2.0	4	1.8	4	1.8	
		4 短期大学卒	40	3.6	0	0.0	7	3.1	
		5 その他	11	1.0	0	0.0	1	0.4	
Q1	あなたは、1年間に本(教育雑誌を含む)を何冊読んでいますか。	1 本を読むことはほとんどない	223	20.1	36	16.4	47	20.8	
		2 年に1～5冊	360	32.4	81	36.8	86	38.1	
		3 年に6～10冊	161	14.5	39	17.7	30	13.3	
		4 年に11～20冊	152	13.7	25	11.4	26	11.5	
		5 年に21～30冊	75	6.7	21	9.5	16	7.1	
		6 年に31～40冊	37	3.3	6	2.7	8	3.5	
		7 年に41～50冊	26	2.3	4	1.8	4	1.8	
		8 年に51冊以上	78	7.0	8	3.6	9	4.0	
			平均	標準偏差	最小値	最大値	中央値	有効ケース	
Q2	今年度4月以降、あなたは、次の研修に何回くらい参加しましたか。回数をご入力ください。参加されていない場合は0をご記入下さい。	(全体)	A 校内研修	5.91	7.99	0	100	4	1112
			B 研究授業	2.43	5.01	0	100	1	1112
			C 校内の自主的な勉強サークル	0.89	3.64	0	50	0	1112
			D 校外の自主的な勉強サークル	0.97	3.83	0	66	0	1112
			E 教育委員会主催の研修(法定研修を除く)	1.41	2.88	0	50	0	1112
			F 大学や民間団体等による研修	0.76	3.85	0	95	0	1112
	(ミドルリーダー期)	A 校内研修	5.42	5.46	0	40	5	220	
		B 研究授業	2.06	2.86	0	30	1	220	
		C 校内の自主的な勉強サークル	1.02	4.44	0	50	0	220	
		D 校外の自主的な勉強サークル	1.32	5.18	0	50	0	220	
		E 教育委員会主催の研修(法定研修を除く)	1.46	2.37	0	15	0	220	
		F 大学や民間団体等による研修	0.62	1.90	0	15	0	220	
	(未就学児がいる場合)	A 校内研修	5.54	9.82	0	100	3	226	
		B 研究授業	2.38	5.25	0	58	1	226	
		C 校内の自主的な勉強サークル	1.15	5.17	0	50	0	226	
		D 校外の自主的な勉強サークル	1.15	4.33	0	50	0	226	
		E 教育委員会主催の研修(法定研修を除く)	1.10	1.94	0	10	0	226	
		F 大学や民間団体等による研修	0.64	1.76	0	10	0	226	

				全体N (1112)	%	ミドルリー ダー期N (220)	%	未就学児が いる場合N (226)	%
Q3	これまでの教員経験全体を振り返って、研修はどの程度役に立ちましたか。	A. 校外の自主的な勉強サークル	1 とても役に立った	137	12.3	29	13.2	33	14.6
			2 やや役になった	386	34.7	93	42.3	70	31.0
			3 あまり役に立っていない	122	11.0	22	10.0	26	11.5
			4 まったく役に立っていない	38	3.4	5	2.3	9	4.0
			5 参加していない	429	38.6	71	32.3	88	38.9
		B. 法定研修(初任者研修・10年経験者研修)	1 とても役に立った	70	6.3	15	6.8	19	8.4
			2 やや役になった	343	30.8	82	37.3	81	35.8
			3 あまり役に立っていない	239	21.5	54	24.5	45	19.9
			4 まったく役に立っていない	116	10.4	23	10.5	22	9.7
			5 参加していない	344	30.9	46	20.9	59	26.1
		C. 教育委員会主催の研修(法定研修を除く)	1 とても役に立った	85	7.6	16	7.3	21	9.3
			2 やや役になった	375	33.7	97	44.1	78	34.5
			3 あまり役に立っていない	234	21.0	50	22.7	47	20.8
			4 まったく役に立っていない	116	10.4	23	10.5	23	10.2
			5 参加していない	302	27.2	34	15.5	57	25.2
D. 大学や民間団体等による研修	1 とても役に立った	116	10.4	25	11.4	30	13.3		
	2 やや役になった	332	29.9	81	36.8	67	29.6		
	3 あまり役に立っていない	145	13.0	31	14.1	34	15.0		
	4 まったく役に立っていない	55	4.9	8	3.6	13	5.8		
	5 参加していない	464	41.7	75	34.1	82	36.3		
				全体N (926)	%	ミドルリー ダー期N (220)	%	未就学児が いる場合N (225)	%
Q4	あなたは、60歳時点で、どのような仕事をしたいですか。(あてはまるものひとつ)	1 管理職	112	12.1	20	9.1	21	9.3	
		2 教務主任	39	4.2	6	2.7	9	4.0	
		3 その他主任	107	11.6	38	17.4	27	12.0	
		4 一般教員	591	63.8	140	63.9	158	70.2	
		5 教育行政職員	29	3.1	6	2.7	4	1.8	
		6 その他	48	5.2	9	4.1	6	2.7	
				全体N (737)	%	ミドルリー ダー期N (184)	%	未就学児が いる場合N (194)	%
Q5	前問で「2. 教務主任」「3. その他主任」「4. 一般教員」と回答した方にお尋ねします。あなたが管理職や行政職になりたくない理由は何ですか。すべて選んで下さい。 【複数回答】	1 ずっと子どもと接したいから	393	53.3	107	58.2	120	61.9	
		2 責任が重すぎるから	252	34.2	65	35.3	66	34.0	
		3 仕事に魅力を感じないから	290	39.3	82	44.6	66	34.0	
		4 授業を極めたいから	111	15.1	26	14.1	38	19.6	
		5 部活動に関わりたから	42	5.7	9	4.9	8	4.1	
		6 広域で異動させられるから	50	6.8	17	9.2	12	6.2	
		7 学校外での教育活動やNPO・サークルに関わりたから	24	3.3	3	1.6	9	4.6	
		8 家事・介護があるから	151	20.5	49	26.6	64	33.0	
		9 十分に働いたから	90	12.2	17	9.2	14	7.2	
		10 その他	33	4.5	7	3.8	7	3.6	

				全体N (1112)	%	ミドルリー ダー期N (220)	%	未就学児が いる場合N (226)	%
Q6	あなたの同僚との関わり方に一番近いものを選んで下さい。	A. 同僚と学校を離れてもイン フォーマルにつきあう	1 よくある	97	8.7	29	13.2	35	15.5
			2 たまにある	425	38.2	101	45.9	95	42.0
			3 あまりない	344	30.9	55	25.0	59	26.1
			4 まったくない	246	22.1	355	15.9	37	16.4
		B. 同僚と教育観や教育方針 について語り合う	1 よくある	126	11.3	28	12.7	26	11.5
			2 たまにある	557	50.1	118	53.6	121	53.5
			3 あまりない	302	27.2	49	22.3	48	21.2
			4 まったくない	127	11.4	25	11.4	31	13.7
		C. 同僚の授業を見たり同僚 があなたの授業を見たりする	1 よくある	143	12.9	29	13.2	37	16.4
			2 たまにある	538	48.4	124	56.4	117	51.8
			3 あまりない	305	27.4	50	22.7	51	22.6
			4 まったくない	126	11.3	17	7.7	21	9.3
		D. 困った時に、同僚の教師から 援助してもらった	1 よくある	253	22.8	64	29.1	81	35.8
			2 たまにある	545	49.0	116	52.7	110	48.7
			3 あまりない	207	18.6	26	11.8	17	7.5
			4 まったくない	107	9.6	14	6.4	18	8.0
		E. 困っている教師を支援した	1 よくある	232	20.9	59	26.8	52	23.0
			2 たまにある	619	55.7	120	54.5	123	54.4
			3 あまりない	172	15.5	27	12.3	30	13.3
			4 まったくない	89	8.0	14	6.4	21	9.3
		F. 同僚教師に指導・助言した	1 よくある	170	15.3	44	20.0	29	12.8
			2 たまにある	559	50.3	112	50.9	127	56.2
			3 あまりない	259	23.3	47	21.4	49	21.7
			4 まったくない	124	11.2	17	7.7	21	9.3
		G. 同僚と教材を協働で作成 したり、交換をしたりする	1 よくある	202	18.2	49	22.3	60	26.5
			2 たまにある	525	47.2	119	54.1	108	47.8
			3 あまりない	252	22.7	35	15.9	39	17.3
			4 まったくない	133	12.0	17	7.7	19	8.4
Q7	あなたの職場の雰囲気・状況 に一番近いものを選んで下さい。	A. 校長・教頭と他の教職員と の間で意思の疎通がうまく図 られている	1 とてもそう思う	109	9.8	21	9.5	21	9.3
			2 ややそう思う	535	48.1	105	47.7	105	46.5
			3 あまりそう思わない	334	30.0	68	30.9	76	33.6
			4 まったくそう思わない	134	12.1	26	11.8	24	10.6
		B. 校長・教頭が勝手にことが らを決めたり進めたりする	1 とてもそう思う	122	11.0	33	15.0	33	14.6
			2 ややそう思う	388	34.9	77	35.0	84	37.2
			3 あまりそう思わない	466	41.9	85	38.6	89	39.4
			4 まったくそう思わない	136	12.2	25	11.4	20	8.8
		C. 校長・教頭からの評価を気 にして仕事をしている	1 とてもそう思う	58	5.2	8	3.6	14	6.2
			2 ややそう思う	245	22.0	57	25.9	62	27.4
			3 あまりそう思わない	496	44.6	96	43.6	94	41.6
			4 まったくそう思わない	313	28.1	59	26.8	56	24.8
		D. 最終的な責任は管理職が とる	1 とてもそう思う	336	30.2	68	30.9	60	26.5
			2 ややそう思う	517	46.5	107	48.6	119	52.7
			3 あまりそう思わない	186	16.7	34	15.5	35	15.5
			4 まったくそう思わない	73	6.6	11	5.0	12	5.3
Q8	あなたの勤務校で次の項目 はどれくらい取り組まれてい ますか。	A. 子ども・保護者による学校 評価・教員評価	1 かなり取り組んでいる	297	26.7	53	24.1	54	23.9
			2 やや取り組んでいる	610	54.9	141	64.1	134	59.3
			3 あまり取り組んでいない	145	13.0	22	10.0	30	13.3
			4 まったく取り組んでいない	60	5.4	4	1.8	8	3.5
		B. 保護者・地域住民の学校参 加	1 かなり取り組んでいる	147	13.2	29	13.2	33	14.6
			2 やや取り組んでいる	612	55.0	136	61.8	133	58.8
			3 あまり取り組んでいない	263	23.7	45	20.5	48	21.2
			4 まったく取り組んでいない	90	8.1	10	4.5	12	5.3
		C. 人事・給与と連動した教員 評価	1 かなり取り組んでいる	100	9.0	12	5.5	19	8.4
			2 やや取り組んでいる	500	45.0	123	55.9	112	49.6
			3 あまり取り組んでいない	354	31.8	66	30.0	67	29.6
			4 まったく取り組んでいない	158	14.2	19	8.6	28	12.4

				全体N (1112)	%	ミドルリー ダー期N (220)	%	未就学児が いる場合N (226)	%
Q8	あなたの勤務校で次の項目 はどれくらい取り組まれていますか。	D.「全国学力・学習状況調査」 の結果にもとづく学力向上策	1 かなり取り組んでいる	82	7.4	18	8.2	15	6.6
			2 やや取り組んでいる	486	43.7	104	47.3	117	51.8
			3 あまり取り組んでいない	331	29.8	58	26.4	65	28.8
			4 まったく取り組んでいない	213	19.2	40	18.2	29	12.8
		E. GIGAスクール構想	1 かなり取り組んでいる	174	15.6	32	14.5	35	15.5
			2 やや取り組んでいる	508	45.7	115	52.3	101	44.7
			3 あまり取り組んでいない	289	26.0	59	26.8	71	31.4
			4 まったく取り組んでいない	141	12.7	14	6.4	19	8.4
		F. 防災教育	1 かなり取り組んでいる	150	13.5	20	9.1	36	115.9
			2 やや取り組んでいる	603	54.2	131	59.5	120	53.1
			3 あまり取り組んでいない	271	24.4	58	26.4	56	24.8
			4 まったく取り組んでいない	88	7.9	11	5.0	14	6.2
		G. ICTを用いた「個別最適な 学び」に向けた検討	1 かなり取り組んでいる	174	15.6	31	14.1	39	17.3
			2 やや取り組んでいる	568	51.1	110	50.0	117	51.8
			3 あまり取り組んでいない	277	24.9	64	29.1	56	24.8
			4 まったく取り組んでいない	93	8.4	15	6.8	14	6.2
Q9	あなたの勤務校で次の項目 はどれくらい取り組まれていますか。	A. 男性の育児休業取得の推 進	1 かなり取り組んでいる	56	5.0	15	6.8	18	8.0
			2 やや取り組んでいる	331	29.8	65	29.5	51	22.6
			3 あまり取り組んでいない	451	40.6	89	40.5	91	40.3
			4 まったく取り組んでいない	274	24.6	51	23.2	66	29.2
		B. 育児休業の復帰に向けて の支援	1 かなり取り組んでいる	74	6.7	11	5.0	18	8.0
			2 やや取り組んでいる	439	39.5	87	39.5	84	37.2
			3 あまり取り組んでいない	407	36.6	84	38.2	83	36.7
			4 まったく取り組んでいない	192	17.3	38	17.3	41	18.1
		C. (セクシュアル・マタニティ・ パタニティ)ハラスメントの防 止	1 かなり取り組んでいる	123	11.1	23	10.5	22	9.7
			2 やや取り組んでいる	545	49.0	105	47.7	108	47.8
			3 あまり取り組んでいない	311	28.0	67	30.5	69	30.5
			4 まったく取り組んでいない	133	12.0	25	11.4	27	11.9
		D. ジェンダーの視点を取り入 れた教材開発・授業開発	1 かなり取り組んでいる	76	6.8	18	8.2	22	9.7
			2 やや取り組んでいる	400	36.0	89	40.5	89	39.4
			3 あまり取り組んでいない	454	40.8	87	39.5	82	36.3
			4 まったく取り組んでいない	182	16.4	26	11.8	33	14.6
		E. 積極的な研修への声かけ や、受けられなかった研修の 再申請のサポート	1 かなり取り組んでいる	63	5.7	16	7.3	16	7.1
			2 やや取り組んでいる	437	39.3	87	39.5	86	38.1
			3 あまり取り組んでいない	439	39.5	92	41.8	89	39.4
			4 まったく取り組んでいない	173	15.6	25	11.4	35	15.5
		F. 有給休暇取得の促進	1 かなり取り組んでいる	150	13.5	26	11.8	24	10.6
			2 やや取り組んでいる	479	43.1	91	41.4	94	41.6
			3 あまり取り組んでいない	343	30.8	81	36.8	73	32.3
			4 まったく取り組んでいない	140	12.6	22	10.0	35	15.5
		G. 介護と仕事の両立支援	1 かなり取り組んでいる	82	7.4	18	8.2	20	8.8
			2 やや取り組んでいる	439	39.5	80	36.4	71	31.4
			3 あまり取り組んでいない	419	37.7	90	40.9	88	38.9
			4 まったく取り組んでいない	172	15.5	32	14.5	47	20.8
		H. ワーク・ライフ・バランスに 関する研修	1 かなり取り組んでいる	56	5.0	14	6.4	15	6.6
			2 やや取り組んでいる	367	33.0	60	27.3	68	30.1
			3 あまり取り組んでいない	454	40.8	93	42.3	96	42.5
			4 まったく取り組んでいない	235	21.1	53	24.1	47	20.8
		I. 管理職に向けた女性教員の 育成	1 かなり取り組んでいる	54	4.9	9	4.1	18	8.0
			2 やや取り組んでいる	344	30.9	70	31.8	61	27.0
			3 あまり取り組んでいない	467	42.0	93	42.3	91	40.3
			4 まったく取り組んでいない	247	22.2	48	21.8	56	24.8
		J. 宿泊を伴う研修への女性 の積極的な参加を促す	1 かなり取り組んでいる	46	4.1	8	3.6	13	5.8
			2 やや取り組んでいる	256	23.0	51	23.2	47	20.8
			3 あまり取り組んでいない	496	44.6	105	47.7	99	43.8
			4 まったく取り組んでいない	314	28.2	56	25.5	67	29.6

				全体N (1112)	%	ミドルリー ダー期N (220)	%	未就学児が いる場合N (226)	%
Q10	あなたは次のことにどれくらい取り組んでいますか。	A. アクティブ・ラーニング	1 かなり取り組んでいる	148	13.3	33	15.0	35	15.5
			2 やや取り組んでいる	541	48.7	110	50.0	118	52.2
			3 あまり取り組んでいない	320	28.8	69	31.4	59	26.1
			4 まったく取り組んでいない	103	9.3	8	3.6	14	6.2
		B. 新型コロナウイルス感染症による休校時のオンライン授業	1 かなり取り組んでいる	173	15.6	33	15.0	40	17.7
			2 やや取り組んでいる	428	38.5	86	39.1	92	40.7
			3 あまり取り組んでいない	312	28.1	67	30.5	55	24.3
			4 まったく取り組んでいない	199	17.9	34	15.5	39	17.3
		C. ICT機器を用いた授業	1 かなり取り組んでいる	261	23.5	57	25.9	58	25.7
			2 やや取り組んでいる	551	49.6	115	52.3	113	50.0
			3 あまり取り組んでいない	212	19.1	35	15.9	40	17.7
			4 まったく取り組んでいない	88	7.9	13	5.9	15	6.6
		D. 観点別評価	1 かなり取り組んでいる	220	19.8	48	21.8	48	21.2
			2 やや取り組んでいる	535	48.1	115	52.3	121	53.5
			3 あまり取り組んでいない	267	24.0	49	22.3	45	19.9
			4 まったく取り組んでいない	90	8.1	8	3.6	12	5.3
Q11	あなたの考え方に一番近いものを選んで下さい。	A. 教員は、社会的に尊敬される仕事だ	1 とてもそう思う	77	6.9	19	8.6	19	8.4
			2 ややそう思う	454	40.8	91	41.4	87	38.5
			3 あまりそう思う	433	38.9	80	36.4	86	38.1
			4 まったくそう思わない	148	13.3	30	13.6	34	15.0
		B. 教員は、経済的に恵まれた仕事だ	1 とてもそう思う	69	6.2	21	9.5	17	7.5
			2 ややそう思う	485	43.6	102	46.4	104	46.0
			3 あまりそう思う	400	36.0	81	36.8	78	34.5
			4 まったくそう思わない	158	14.2	16	7.3	27	11.9
		C. 教員は、精神的に気苦労の多い仕事だ	1 とてもそう思う	654	58.8	135	61.4	142	62.8
			2 ややそう思う	347	31.2	69	31.4	61	27.0
			3 あまりそう思う	75	6.7	11	5.0	14	6.2
			4 まったくそう思わない	36	3.2	5	2.3	9	4.0
		D. 教員は、子どもに接する喜びのある仕事だ	1 とてもそう思う	396	35.6	83	37.7	96	42.5
			2 ややそう思う	540	48.6	102	46.4	95	42.0
			3 あまりそう思う	118	10.6	28	12.7	25	11.1
			4 まったくそう思わない	58	5.2	7	3.2	10	4.4
		E. 教員は、やりがいのある仕事だ	1 とてもそう思う	384	34.5	82	37.3	94	41.6
			2 ややそう思う	517	46.5	97	44.1	100	44.2
			3 あまりそう思う	141	12.7	29	13.2	19	8.4
			4 まったくそう思わない	70	6.3	12	5.5	13	5.8
		F. 教員は、自己犠牲を強いられる仕事だ	1 とてもそう思う	434	39.0	102	46.4	94	41.6
			2 ややそう思う	477	42.9	92	41.8	100	44.2
			3 あまりそう思う	161	14.5	23	10.5	24	10.6
			4 まったくそう思わない	40	3.6	3	1.4	8	3.5
		G. 教員は、自分の考えにそって自律的にやれる仕事だ	1 とてもそう思う	112	10.0	24	10.9	33	14.6
			2 ややそう思う	571	51.3	111	50.5	102	45.1
			3 あまりそう思う	339	30.5	74	33.6	72	31.9
			4 まったくそう思わない	90	8.1	11	5.0	19	8.4

				全体N (1112)	%	ミドルリー ダー期N (220)	%	未就学児が いる場合N (226)	%
Q11	あなたの考えに一番近いもの を選んでください。	H. 教員は、高度の専門的知 識・技能が求められる仕事だ	1 とても思う	326	29.3	70	31.8	78	34.5
			2 ややそう思う	591	53.1	118	53.6	107	47.3
			3 あまりそう思う	154	13.8	27	12.3	33	14.6
			4 まったくそう思わない	41	3.7	5	2.3	8	3.5
		I. 教員は、高い倫理観が強く 求められる仕事だ	1 とてもそう思う	409	36.8	89	40.5	88	38.9
			2 ややそう思う	543	48.8	107	48.6	108	47.8
			3 あまりそう思う	112	10.1	18	8.2	18	8.0
			4 まったくそう思わない	48	4.3	6	2.7	12	5.3
		J. 教員は、「自分らしさ」を表 現できる仕事だ	1 とてもそう思う	148	13.3	32	14.5	32	14.2
			2 ややそう思う	537	48.3	99	45.0	111	49.1
			3 あまりそう思う	318	28.6	68	30.9	64	28.3
			4 まったくそう思わない	109	9.8	21	9.5	19	8.4
		K. 教員は、はっきりとした成 果を問われる仕事だ	1 とてもそう思う	120	10.8	30	13.6	31	13.7
			2 ややそう思う	473	42.5	85	38.6	92	40.7
			3 あまりそう思う	424	38.1	82	37.3	82	36.3
			4 まったくそう思わない	95	8.5	23	10.5	21	9.3
		L. 教員は、割り当てられた役 割に専心する仕事だ	1 とてもそう思う	115	10.3	29	13.2	27	11.9
			2 ややそう思う	532	47.8	102	46.4	106	36.9
			3 あまりそう思う	362	32.6	69	31.4	76	33.6
			4 まったくそう思わない	103	9.3	20	9.1	17	7.5
		M. 教員は、教師以外の人々 との関係づくりが欠かせない 仕事だ	1 とてもそう思う	291	26.2	62	28.2	69	30.5
			2 ややそう思う	569	51.2	115	52.3	114	50.4
			3 あまりそう思う	197	17.7	35	15.9	32	14.2
			4 まったくそう思わない	55	4.9	8	3.6	11	4.9
Q12	あなたは、現時点で次のこと をどのように考えています か。	A. 教師になってよかった	1 とてもそう思う	323	29.0	68	30.9	79	35.0
			2 ややそう思う	536	48.2	104	47.3	99	43.8
			3 あまりそう思う	159	14.3	31	14.1	30	13.3
			4 まったくそう思わない	94	8.5	17	7.7	18	8.0
		B. 慢性的に疲れを感じる	1 とてもそう思う	407	36.6	99	45.0	102	45.1
			2 ややそう思う	454	40.8	88	40.0	83	36.7
			3 あまりそう思う	206	18.5	29	13.2	37	16.4
			4 まったくそう思わない	45	4.0	4	1.8	4	1.8
		C. 毎日が忙しい	1 とてもそう思う	473	42.5	111	50.5	117	51.8
			2 ややそう思う	454	40.8	89	40.5	86	38.1
			3 あまりそう思う	154	13.8	17	7.7	18	8.0
			4 まったくそう思わない	31	2.8	3	1.4	5	2.2
Q12	あなたは、現時点で次のこと をどのように考えています か。	D. 教師をやめたい	1 とてもそう思う	146	13.1	35	15.9	28	12.4
			2 ややそう思う	292	26.3	60	27.3	64	28.3
			3 あまりそう思う	407	36.6	79	35.9	84	38.2
			4 まったくそう思わない	267	24.0	46	20.9	50	22.1
		E. やりがいがある	1 とてもそう思う	325	29.2	63	28.6	70	31
			2 ややそう思う	525	47.2	113	51.4	120	53.1
			3 あまりそう思う	184	16.5	29	13.2	23	10.2
			4 まったくそう思わない	78	7.0	15	6.8	13	5.8
Q13	あなたが負担を感じる項目をすべて選んで下さい。	A 生徒指導	468	42.1	102	46.4	109	48.2	
		B 授業準備	311	28.0	66	30.0	80	35.4	
		C 校務分掌	430	38.7	112	50.9	115	50.9	
		D 部活動	323	29.0	74	33.6	83	36.7	
		E 保護者への対応	626	56.3	134	60.9	140	61.9	
		F 管理職への対応	215	19.3	49	22.3	46	20.4	
		G 管理的業務	94	8.5	10	4.5	13	5.8	
		H 調査・報告等の事務作業	491	44.2	112	50.9	101	44.7	
		I その他	30	2.7	5	2.3	8	3.5	
		J 負担を感じるものがない	98	8.8	5	2.3	9	4.0	
Q14	あなたは、過去に教師を辞めたいと思ったことがありますか。	1 ある	717	64.5	154	70.0	153	67.7	
		2 ない	395	35.5	66	30.0	73	32.3	
				全体N (717)	%	ミドルリー ダー期N (154)	%	未就学児が いる場合N (153)	%
Q15	前問で「1. ある」と回答した方にお尋ねします。それはなぜで すか。当てはまるものをすべて選んで下さい。	1 出産してから	75	10.5	31	20.1	53	34.6	
		2 介護を抱えたから	29	4.0	3	1.9	4	2.6	
		3 転職を考えたから	130	18.1	21	13.6	26	17.0	
		4 職務上の理由	423	59.0	88	57.1	75	49.0	
		5 自分自身の病気のため	130	18.1	25	16.2	13	8.5	
		6 その他	100	13.9	25	16.2	26	17.0	

			全体N (1112)	%	ミドルリー ダー期N (220)	%	未就学児が いる場合N (226)	%
Q16	現在の勤務先都道府県はどこですか。	1 北海道	82	7.4	17	7.7	16	7.1
		2 青森県	7	0.6	0	0.0	1	0.4
		3 岩手県	11	1.0	2	0.9	2	0.9
		4 宮城県	26	2.3	3	1.4	3	1.3
		5 秋田県	15	1.3	0	0.0	2	0.9
		6 山形県	7	0.6	2	0.9	3	1.3
		7 福島県	11	1.0	2	0.9	0	0.0
		8 茨城県	29	2.6	4	1.8	6	2.7
		9 栃木県	10	0.9	1	0.5	1	0.4
		10 群馬県	12	1.1	1	0.5	1	0.4
		11 埼玉県	37	3.3	5	2.3	7	3.1
		12 千葉県	38	3.4	8	3.6	8	3.5
		13 東京都	119	10.7	32	14.5	23	10.2
		14 神奈川県	72	6.5	22	10.0	22	9.7
		15 新潟県	17	1.5	2	0.9	1	0.4
		16 富山県	6	0.5	0	0.0	0	0.0
		17 石川県	6	0.5	2	0.9	1	0.4
		18 福井県	7	0.6	3	1.4	3	1.3
		19 山梨県	7	0.6	4	1.8	4	1.8
		20 長野県	17	1.5	3	1.4	4	1.8
		21 岐阜県	26	2.3	6	2.7	7	3.1
		22 静岡県	39	3.5	5	2.3	5	2.2
		23 愛知県	88	7.9	19	8.6	23	10.2
		24 三重県	18	1.6	4	1.8	1	0.4
		25 滋賀県	13	1.2	5	2.3	4	1.8
		26 京都府	30	2.7	5	2.3	6	2.7
		27 大阪府	76	6.8	22	10.0	20	8.8
		28 兵庫県	39	3.5	7	3.2	8	3.5
		29 奈良県	9	0.8	3	1.4	3	1.3
		30 和歌山県	10	0.9	2	0.9	4	1.8
		31 鳥取県	6	0.5	1	0.5	0	0.0
		32 島根県	7	0.6	1	0.5	0	0.0
		33 岡山県	19	1.7	2	0.9	5	2.2
		34 広島県	31	2.8	6	2.7	7	3.1
		35 山口県	20	1.8	2	0.9	3	1.3
		36 徳島県	5	0.4	1	0.5	1	0.4
		37 香川県	7	0.6	1	0.5	0	0.0
		38 愛媛県	8	0.7	0	0.0	1	0.4
		39 高知県	4	0.4	0	0.0	0	0.0
		40 福岡県	48	4.3	6	2.7	13	5.8
		41 佐賀県	6	0.5	1	0.5	1	0.4
		42 長崎県	12	1.1	4	1.8	0	0.0
		43 熊本県	16	1.4	1	0.5	3	1.3
		44 大分県	11	1.0	1	0.5	1	0.4
		45 宮崎県	7	0.6	0	0.0	0	0.0
		46 鹿児島県	12	1.1	0	0.0	0	0.0
		47 沖縄県	9	0.8	2	0.9	2	0.9
			平均	標準偏差	最小値	最大値	中央値	有効ケース
Q17	現在、勤めている都道府県で何年目の勤務ですか。数字をご入力ください。 ※0～100の半角数字でご記入ください。	(全体)	18.96	12.76	0	49	16	1112
		(ミドルリーダー期)	13.40	4.12	1	24	13	220
		(未就学児がいる場合)	10.31	5.98	1	33	10	226

			平均	標準偏差	最小値	最大値	中央値	有効ケース
Q18	これまでの教員歴(年数)をお答え下さい。回答する時には、○カ月は切り上げて下さい(例:1ヶ月→1年)。ない方は0でお答え下さい。※(現在の採用形態を含む)	A 臨時採用(非常勤)として	1.45	4.07	0	50	0	1112
		B 臨時採用(常勤)として	1.61	3.56	0	38	0	1112
		C 本採用として	17.45	13.41	0	47	15	1112
	(ミドルリーダー期)	A 臨時採用(非常勤)として	0.50	1.26	0	10	0	220
		B 臨時採用(常勤)として	1.20	2.20	0	13	0	220
		C 本採用として	13.48	3.47	9	20	13	220
	(未就学児がいる場合)	A 臨時採用(非常勤)として	1.04	3.85	0	50	0	226
		B 臨時採用(常勤)として	1.26	2.55	0	20	0	226
		C 本採用として	9.74	6.30	0	33	9	226
Q19	あなたは、正規の採用までに、何回、採用試験を受けましたか。回数をご入力下さい。(全体)		2.34	3.12	1	54	1	976
	(ミドルリーダー期)		2.95	4.63	1	54	2	220
	(未就学児がいる場合)		9.74	6.30	0	33	9	226
			全体N (1112)	%	ミドルリー ダー期N (220)	%	未就学児が いる場合N (226)	%
Q20	教職以外のキャリアの経験はありますか。	1 ある	299	26.9	59	26.8	60	26.5
		2 ない	813	73.1	161	73.2	166	73.5
Q21	教職を一度退職して、その後、再度教職に就いた経験はありますか。	1 ある	177	15.9	23	10.5	22	9.7
		2 ない	935	84.1	197	89.5	204	90.3
Q22	他都道府県で就職し、退職して、他都道府県に就職した経験はありますか。	1 ある	153	13.8	38	17.3	34	15.0
		2 ない	959	86.2	182	82.7	192	85.0
Q23	現在の勤務先での採用形態をお答え下さい。	1 本採用として	847	76.2	220	100.0	203	89.8
		2 臨時採用・常勤	102	9.2			6	2.7
		3 臨時採用・非常勤	151	13.6			15	6.6
		4 その他	12	1.1			2	0.9
Q24	勤務校の設置形態をお答え下さい。	1 国立	23	2.1			10	4.4
		2 公立	951	85.5	220	100.0	204	90.3
		3 私立	138	12.4			12	5.3
Q25	あなたの現在の職名をお答え下さい。	1 校長・副校長・教頭	71	6.4			4	1.8
		2 主幹教諭・指導教諭・主任・首席教諭など	134	12.1	42	19.1	23	10.2
		3 教諭	692	62.2	178	80.9	182	80.5
		4 臨時採用・臨時講師	190	17.1			15	6.6
		5 その他	25	2.2			2	0.9
Q26	あなたは現在学級担任をしていますか。	1 している	474	42.6	134	60.9	128	56.6
		2 していない	638	57.4	86	39.1	98	43.4
Q27	あなたは現在部活動の顧問をしていますか。	1 している	416	37.4	93	42.3	88	38.9
		2 していない	696	62.6	127	57.7	138	61.1
Q28	あなたは現在、教職大学院に在学していますか。	1 している	19	1.7	3	1.4	6	2.7
		2 していない	1093	98.3	217	98.6	220	97.3
			全体N (567)	%	ミドルリー ダー期N (94)	%	未就学児が いる場合N (106)	%
Q29	中・高(中等教育学校を含む)の先生にお尋ねします。担当教科をお答え下さい。(当てはまるものすべて) 【複数回答】	1 国語	74	13.1	14	14.9	13	12.3
		2 社会・地理歴史・公民	66	11.6	9	9.6	14	13.2
		3 数学	96	16.9	18	19.1	13	12.3
		4 理科	74	13.1	13	13.8	12	11.3
		5 音楽	30	5.3	3	3.2	6	5.7
		6 美術・芸術	13	2.3	1	1.1	0	0.0
		7 保健体育	44	7.8	9	9.6	9	8.5
		8 家庭科・技術家庭科	36	6.3	5	5.3	9	8.5
		9 英語(外国語)	108	19.0	18	19.1	27	25.5
		10 情報	18	3.2	2	2.1	3	2.8
		11 総合的な学習(探究)の時間	50	8.8	11	11.7	8	7.5
		12 特別の教科道徳	30	5.3	7	7.4	3	2.8
		13 専門学級の教科(商業・工業・農業・水産など)	28	4.9	2	2.1	4	3.8
		14 その他	19	3.4	1	1.1	4	3.8

			全体N (1112)	%	ミドルリー ダー期N (220)	%	未就学児が いる場合N (226)	%
Q30	担当教科の学校内外のネットワークはありますか。	1 ある	472	42.4	105	47.7	106	46.9
		2 ない	425	38.2	85	38.6	76	33.6
		3 該当しない	215	19.3	30	13.6	44	19.5
			平均	標準偏差	最小値	最大値	中央値	有効ケース
Q31	これまで、異動は何回経験しましたか。回数をご入力ください。(全体)		3.62	3.07	0	20	3	1112
	(ミドルリーダー期)		2.50	1.59	0	10	2	220
	(未就学児がいる場合)		2.00	2.17	0	20	1.5	226
Q32	これまで、転居を伴う異動は何回経験しましたか。回数をご入力ください。(全体)		1.10	3.70	0	100	0	1112
	(ミドルリーダー期)		1.27	6.81	0	100	0	220
	(未就学児がいる場合)		0.96	3.50	0	50	0	226
			全体N (826)	%	ミドルリー ダー期N (220)	%	未就学児が いる場合N (226)	%
Q33	あなたが現在担っている主任または主事の役割はありますか。当てはまるものをすべて選んで下さい。担っていない場合には、「担っていない」を選んで下さい。 【複数回答】	1 教務主任	49	5.9	10	4.5	7	3.4
		2 学年主任	128	15.5	46	20.9	24	11.7
		3 保健主事	22	2.7	3	1.4	6	2.9
		4 生徒指導主事	46	5.6	11	5.0	15	7.3
		5 進路指導主事	40	4.8	9	4.1	8	3.9
		6 その他の主任・主事の役割	77	9.3	23	10.5	12	5.9
		7 担っていない	509	61.6	126	57.3	141	68.8
			全体N (1112)	%	ミドルリー ダー期N (220)	%	未就学児が いる場合N (226)	%
Q34	あなたの平均的な1日の在職時間は何時間ですか。	1 8時間未満	235	21.1	26	11.8	38	16.8
		2 8時間以上10時間未満	448	40.3	109	49.5	97	42.9
		3 10時間以上12時間未満	309	27.8	68	30.9	64	28.3
		4 12時間以上14時間未満	83	7.5	11	5.0	19	8.4
		5 14時間以上16時間未満	13	1.2	2	0.9	2	0.9
		6 16時間以上	24	2.2	4	1.8	6	2.7
Q35	あなたの通勤時間はどのくらいですか。	1 30分未満	504	45.3	89	40.5	95	42.0
		2 30分以上1時間未満	418	37.6	89	40.5	83	36.7
		3 1時間以上1時間30分未満	149	13.4	34	15.5	42	18.6
		4 1時間30分以上2時間未満	24	2.2	5	2.3	4	1.8
		5 2時間以上	17	1.5	3	1.4	2	0.9
Q36	あなたは配偶者がいますか(事実婚を含む)。	1 いる	820	73.7	179	81.4	221	97.8
		2 いない	292	26.3	41	18.6	5	2.2
			全体N (820)	%	ミドルリー ダー期N (179)	%	未就学児が いる場合N (221)	%
Q37	前問で「1.いる」を選択した場合、配偶者の職種、就労状況および就労形態について、次のうち、当てはまるものを選んで下さい。	1 教員	263	32.1	66	36.9	91	41.2
		2 教員ではない	557	67.9	113	63.1	130	58.8
			全体N (263)	%	ミドルリー ダー期N (66)	%	未就学児が いる場合N (91)	%
Q38	前問が「1. 教員」の場合、次のどちらに当てはまりますか。	1 本務教員	235	89.4	63	95.5	85	93.4
		2 臨時採用・臨時講師等の兼務教員	28	10.6	3	4.5	6	6.6
			全体N (557)	%	ミドルリー ダー期N (113)	%	未就学児が いる場合N (130)	%
Q39	前問が「2. 教員ではない」の場合、当てはまるものを選んで下さい。	1 無職	144	25.9	25	22.1	19	14.6
		2 正規雇用者	224	40.2	67	59.3	88	67.7
		3 非正規雇用者	126	22.6	11	9.7	15	11.5
		4 自営・家族従業・自由業	55	9.9	10	8.8	7	5.4
		5 その他	8	1.4	0	0.0	1	0.8
			全体N (1112)	%	ミドルリー ダー期N (220)	%	未就学児が いる場合N (130)	%
Q40	あなたは現在、家事・育児・介護等、あなたのご家庭の役割をどの程度担っていますか。(家庭で必要な総労力を100%として)次のうち、当てはまるものを1つだけ選んで下さい。	1 ほとんどあなたがしている(90～100%程度)	286	25.7	59	26.8	55	24.3
		2 半分以上はあなたがしている(60～80%程度)	215	19.3	57	25.9	75	33.2
		3 ほぼ半分あなたがしている(50%程度)	140	12.6	33	15.0	43	19.0
		4 半分以下だがあなたもしている(20～40%程度)	239	21.5	45	20.5	39	17.3
		5 あなたはほとんどしていない(0～10%程度)	232	20.9	26	11.8	14	6.2
Q41	あなたにはお子さんはいますか。	1 いる	702	63.1	157	71.4	226	100.0
		2 いない	410	36.9	63	28.6		

				平均	標準偏差	最小値	最大値	中央値	有効ケース	
Q42	前問で「1.いる」の場合、お子さんの数は何人ですか。(全体)			1.93	0.81	1	5	2	702	
	(ミドルリーダー期)			1.82	0.83	1	4	2	157	
	(未就学児がいる場合)			1.73	0.86	1	5	2	226	
				全体N (702)	%	ミドルリー ダー期N (157)	%	未就学児が いる場合N (226)	%	
Q43	前問で「1.いる」の場合、小学生未満のお子さんはいますか。		1 いる	226	32.2	101	45.9	226	100.0	
			2 いない	476	67.8	56	25.5			
				全体N (1112)	%	ミドルリー ダー期N (220)	%	未就学児が いる場合N (226)	%	
Q44	現在、ご家族の介護(同居・別居どちらでも)をしていますか。			1 している	122	11.0	8	3.6	17	7.5
				2 していない	990	89.0	212	96.4	209	92.5

執筆者一覧

木村育恵(北海道教育大学)

はじめに

I -1, I -2(1)(2), I -3(5)(6)

II -1, II -2(1)(2), II -3(6)~(9)

河野銀子(九州大学)

I -2(3)~(6), I -3(7)(8)

II -2(3)~(6), II -3(10)(11)

田口久美子(和洋女子大学)

I -2(7)(8), I -3(9)(10)

II -2(7)(8), II -3(12)(13)

池上徹(関西福祉科学大学)

I -2(9), I -3(11)(12)

II -2(9), II -3(14)(15)

跡部千慧(立教大学)

I -2(10)(11), I -3(13)(14)

II -2(10)(11), II -3(16)(17)

高野良子(植草学園大学名誉教授)

I -2(12)~(15), I -3(1)~(4)

II -2(12)~(15), II -3(1)~(5)

井上いずみ(公立学校教員)

I -3(15)~(26)

II -3(18)~(27)

教員のキャリア形成に関するアンケート調査
(オンラインによる全国教員調査)
第2次報告書

2024年2月 発行

教員のキャリア形成に関する研究会
(木村育恵・河野銀子・田口久美子・池上徹・跡部千慧・高野良子・井上いずみ)

連絡先 〒040-8567 北海道函館市八幡町1-2
北海道教育大学教育学部函館校 木村育恵研究室
E-mail: kimura.ikue@h.hokkyodai.ac.jp

国際ジェンダー学会教育分科会 研究成果公開 HP
<https://isgswe.aiyweb.com/index.html>

